「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」
整備基本構想

丘珠縄文遺跡から出土した縄文土器

札　幌　市

目　次

第１章　事業の目的 …… 1

第２章　事業の位置付け …… 2

1　事業の位置付け

2　基本構想の策定に至る経緯

（1）基本構想策定の流れ

（2）検討委員会の設置・運営

（3）市民意見の集約

（4）市民との情報共有

第３章　丘珠縄文遺跡の概要 …… 9

1　札幌の縄文遺跡

2　遺跡の位置と周辺の環境

（1）地理的環境

（2）歴史的環境

3　サッポロさとらんどと周辺の文化施設

4　サッポロさとらんどの遺跡とその調査経緯

5　確認調査の方針と方法

（1）調査方針

（2）調査方法

6　丘珠縄文遺跡の概要

（1）地層と地形

（2）遺構と遺物

（3）遺跡の概要

第４章　整備の基本方針 …… 29

1　整備の意義

2　遺跡公園の位置付け

3　遺跡公園のテーマ

4　整備の基本方針

5　整備の方向性

第５章　今後の計画 …… 33

附　章　パブリックコメント手続 …… 34

基本構想～概要版～ …… 45

第1章　事業の目的

近年、歴史や文化を尊重し、環境に配慮した生活空間を希求する社会的要請を背景に、遺跡を活用した歴史学習、体験学習、環境学習の場として、「遺跡公園」の設置に対する要望が高まり、全国的にその整備が進んでいます。

このような社会的要請を受けて、文化庁では、平成 19 年に「埋蔵文化財行政の推進による地域づくり・ひとづくり」という新たな方向性を提示する報告書をまとめ、地方公共団体に対し、埋蔵文化財の公開・活用に重点をおいた施策を積極的に進めるよう求めています（『埋蔵文化財の保存と活用（報告）～地域づくり・ひとづくりを目指す埋蔵文化財保護行政～』平成 19 年 2 月 1 日）。

このような社会的な気運の高まりを踏まえた上で、本市では、札幌の特色ある文化財を積極的に活用していく方針のもと、札幌市農業体験交流施設サッポロさとらんど内に保存されている縄文文化の遺跡、H508 遺跡※1 を活用して、遺跡公園を整備することを計画しています。

H508 遺跡は、サッポロさとらんどの造成に先立ち、平成 4・5 年に実施した試掘調査によって発見され、その後、現地の地下に保存されてきた、市内でも有数の広がりをもつ縄文晩期※2 の遺跡です。縄文文化の遺跡は、市内各所に分布していますが、この H508 遺跡は、札幌の低地部に広がった環境に適応した人々のくらしの原形を表す遺跡と評価されています。

本事業は、札幌の縄文文化の魅力を発信するために、H508 遺跡を適切に保存し、地域の歴史資源、文化資源、教育資源として、市民の皆様とともに、その価値を将来へと伝えていくことを目的としています。

この基本構想（案）は、以上の目的を踏まえて、遺跡公園の整備に向けた基本的な考え方をまとめたものです。

なお、基本構想の策定に向けて、遺跡の内容をわかりやすく発信することを目指して、H508 遺跡を通称「丘珠縄文遺跡（おかだまじょうもんいせき）」※3 と呼ぶこととし、この基本構想の名称を『「（仮称）丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想』とします。

※1）「H508」（えっちごひゃくはち）とは、遺跡が所在する東区（「HIGASHIKU」）の頭文字である「H」と、札幌市内で 508 番目に遺跡として登載されたことを示す番号とを組み合わせた遺跡の名称です。

※2）縄文文化は、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の 6 期に区分されており、市内では早期～晩期の遺跡が見つかっています。以下、「縄文早期」、「縄文晩期」等と略して表記します。

※3）H508 遺跡の通称名は、アイヌ語に由来し、町名として親しまれている「丘珠」に、縄文文化の遺跡であることを示す「縄文」を付けて、「丘珠縄文遺跡」とします。

第2章　事業の位置付け

1　事業の位置付け

遺跡公園の整備事業は、「第 3 次札幌新まちづくり計画（計画期間：平成 23～26 年度）」※4 において、「(仮称) 古代の里」の整備事業として、政策目標「市民が創る自治と文化の街」、重点課題「多彩な文化芸術の創造とスポーツを楽しみ健康づくりを推進するまちづくり」を進める施策の一つに位置付けられました。

第 3 次札幌新まちづくり計画
《 【政策目標５】市民が創る自治と文化の街 》
［重点課題２］
『多彩な文化芸術の創造とスポーツを楽しみ
健康づくりを推進するまちづくり』
［施　策］
「市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、
自ら作り上げる文化活動の振興」

↓

「(仮称) 古代の里」の整備

↓

「(仮称) 丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想

※4)「第 3 次札幌新まちづくり計画」は、まちづくりの長期的な総合計画（「第 4 次札幌市長期総合計画（計画期間：平成 12～32 年度）」）に基づき、札幌市を取り巻く社会的情勢の変化を受け今後 10 年間の新たなまちづくりの指針として平成 25 年度に策定された「札幌市まちづくり戦略ビジョン（計画期間：平成 25～34 年度）」の方向性を踏まえ、施政方針「さっぽろ元気ビジョン第 3 ステージ」（平成 23 年 6 月策定）に掲げられた「まちづくりの基本的な方向」を実行に移すために、平成 23～26 年度を計画期間として、優先的・重点的に実施する施策・事業を定めたものです。

2　基本構想の策定に至る経緯

（1）基本構想策定の流れ

平成 24 年度に、（仮称）古代の里整備基本構想検討委員会（以下「検討委員会」）を設置し、平成 24～25 年度に、整備の方向性について検討を進めました。

また、平成 24～25 年度には、遺跡範囲の測量調査を行い、平成 25 年度には、遺跡の具体的な内容を把握するための部分的な発掘調査（確認調査：以下「確認調査」）を市民ボランティア参加のもと実施し、確認調査の成果に基づき、検討委員会の専門部会（調査・整備委員会）で遺跡の評価を検討しました。

さらに、平成 25 年度には、市民の声を活かした基本構想づくりを目指し、確認調査に参加した市民ボランティアの意見交換会を開催するなど、市民意見の集約を行っています。

その他にも、遺跡公園の整備事業と縄文遺跡の魅力について市民の皆様と情報を共有するために、平成 23 年度以降、シンポジウム、講演会、出前展示、企画展、遺跡見学会等を開催しています。

この基本構想（案）は、確認調査の成果に基づく遺跡の評価を踏まえ、市民意見を参考に、検討委員会での意見交換に基づき作成したものです。今後、パブリックコメントを実施し、改めて市民意見を把握した上で、基本構想を策定します。

（2）検討委員会の設置・運営

サッポロさとらんど内に保存されている H508 遺跡（丘珠縄文遺跡）を活用した遺跡公園の整備・活用に向けた基本構想を策定するにあたり、専門的な立場及び市民の立場からの意見を聴くために、検討委員会を設置しました。

また、確認調査の方法と遺跡の評価について専門的な意見交換を行い、整備の方向性を検討するために、検討委員会の中に、考古学を中心とした学識経験者からなる専門部会「調査・整備委員会」（以下「専門部会」）を設置しました。

なお、検討委員会及び専門部会は、市民の皆様と情報を共有するために、すべて公開で開催しました。

【検討委員会の設置経過】

・委員会設置準備　　平成 24 年 4～5 月
・公募委員募集　　平成 24 年 6 月
・公募委員選定・委員委嘱　平成 24 年 7～10 月
・専門部会の設置　　平成 24 年 11 月

【検討委員会の委員構成：平成 24～25 年度】

・座　長　川名　広文　　札幌大学　教授
・副座長　小杉　　康　　国立大学法人　北海道大学大学院　教授
・委　員　阿部　一司　　社団法人　北海道アイヌ協会　札幌支部長
　　石川　　朗　　釧路市埋蔵文化財調査センター　副主幹
　　大島　直行　　伊達市噴火湾文化研究所　所長
　　川上　源太郎　地方独立行政法人　北海道立総合研究機構
　　環境・地質研究本部　地質研究所　研究主任
　　北島　英司　　丘珠連合町内会　会長
　　鈴木　ゆか　　公募委員
　　高瀬　克範　　国立大学法人　北海道大学大学院　准教授
　　髙橋　雅子　　公募委員
　　椿坂　恭代　　元札幌国際大学　客員研究員
　　富岡　直人　　岡山理科大学　教授
　　平間　吉春　　元北海道退職校長会　会長
　　吉田　惠介　　公立大学法人　札幌市立大学　教授

【検討委員会のオブザーバー】

平成 24 年度

・長沼　　孝　　北海道教育庁生涯学習推進局　文化財・博物館課　主幹
・三部　英二　　札幌市経済局農政部長
・大崎　茂己　　札幌市東区市民部長

平成 25 年度

・長沼　　孝　　北海道教育庁生涯学習推進局　文化財・博物館課長
・三部　英二　　札幌市経済局農政部長
・須貝　武美　　札幌市東区市民部長

【検討委員会の運営経過】

第 1 回　検討委員会　（平成 24 年 11 月 7 日）

・議題 1　事業の位置づけと委員会の目的について

・議題 2　埋蔵文化財の保存と活用について

・議題 3　基本構想に盛り込むべき内容について

・議題 4　現状における遺跡公園のテーマについて

・議題 5　遺跡整備の意義と縄文時代の研究動向について

第 2 回　検討委員会　（平成 24 年 12 月 25 日）

・議題 1　市内遺跡の概況について

・議題 2　さとらんどの遺跡の概要について

・議題 3　H317 遺跡の調査成果と H508 遺跡の展望について

・議題 4　他都市における遺跡公園整備事例について

第 3 回　検討委員会　（平成 25 年 2 月 25 日）

・議題 1　動物利用からみた H317 遺跡の位置付け

・議題 2　モエレ沼周辺の環境変遷について

・議題 3　「サッポロさとらんど」と周辺地域の現状について

・議題 4　遺跡公園整備のテーマについて

第 4 回　検討委員会　（平成 25 年 3 月 26 日）

・報告 1　講演会の実施結果について

・報告 2　第 1 回調査・整備委員会について

・議題 1　遺跡周辺に係る法的規制と都市計画との関係について

・議題 2　平成 25 年度の事業計画について

第 5 回　検討委員会　（平成 25 年 7 月 23 日）

・報告 1　平成 24 年度の事業概要について

・報告 2　平成 25 年度の確認調査と市民参加事業について

・さとらんど施設見学

・H508 遺跡確認調査現地視察

第 6 回　検討委員会　（平成 25 年 12 月 16 日）

・報告 1　これまでの検討経過について

・議題 1　基本構想（案）について

第 7 回　検討委員会（平成 26 年 1 月 29 日）

・議題 1　基本構想（案）について

第 8 回　検討委員会（平成 26 年 3 月 24 日）

・議題 1　基本構想（案）について

・報告 1　平成 26 年度の事業計画について

【専門部会の委員構成：平成 24～25 年度】

・座　長　川名　広文　　札幌大学　教授
・副座長　小杉　　康　　国立大学法人　北海道大学大学院　教授
・委　員　石川　　朗　　釧路市埋蔵文化財調査センター　副主幹
　　大島　直行　　伊達市噴火湾文化研究所　所長
　　高瀬　克範　　国立大学法人　北海道大学大学院　准教授
　　椿坂　恭代　　元札幌国際大学　客員研究員
　　富岡　直人　　岡山理科大学　教授

【専門部会の運営経過】

第 1 回　専門部会　（平成 25 年 2 月 25 日）
・議題 1　平成 24 年度の測量調査の結果について
・議題 2　平成 25 年度の確認調査の方針について
第 2 回　専門部会　（平成 25 年 10 月 8 日）
・報告 1　平成 25 年度の確認調査の結果について
・報告 2　遺跡公園整備事業への市民意見について
・議題 1　遺跡の評価と整備の方向性について
第 3 回　専門部会　（平成 25 年 11 月 13 日）
・報告 1　H508 遺跡の評価について
・議題 1　整備の方向性について

（３）市民意見の集約

整備事業を市民の皆様とともに進めていくために、H508 遺跡の確認調査を市民参加で実施するとともに、市民の声を基本構想の検討に活かすために、市民意見の集約を行いました。

【発掘調査市民ボランティア（公募）】

・市民ボランティア参加期間：平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日
・市民ボランティア調査日数：期間中の 13 日間
・参加者数：49 名（女性 24 名、男性 25 名）
・延べ参加者数：168 名

【発掘調査市民ボランティア意見交換会（ワークショップ：公開）】

・開催日：平成 25 年 8 月 31 日
・参加者数：15 名（女性 7 名、男性 8 名）
・内容：A～C グループに分かれて遺跡公園について自由討論・発表※5

【遺跡公園の整備に関するアンケート】※6

・発掘調査市民ボランティア：42 名回答（平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日）
・H508 遺跡見学会参加者：83 名回答（平成 25 年 8 月 24 日）
・札幌市埋蔵文化財センター講演会参加者：21 名回答（平成 25 年 9 月 23 日）

※5・6）意見交換会及びアンケートの結果については札幌市ホームページで公開しています。
（http://www.city.sapporo.jp/kankobunka/maibun/）

（４）市民との情報共有

事業を進めるにあたり、市民の皆様と情報を共有するために、H508 遺跡見学会、中高生体験発掘、さとらんどにおける出前展示、シンポジウム、講演会等を開催しました。

【平成 23 年度】

・出前展示「さとらんどの遺跡展」
　平成 23 年 9 月 10 日～11 日　さとらんど交流館
・公開シンポジウム「遺跡の保存と整備・活用　～さとらんど遺跡公園整備に向けて～」
　平成 24 年 3 月 3 日　札幌市中央図書館　講堂
・埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」
　平成 23 年 11 月 1 日～平成 24 年 3 月 30 日　埋蔵文化財センター展示室

【平成 24 年度】

・出前展示「さとらんどの遺跡展」

平成 24 年 9 月 8 日～9 日　さとらんど交流館

・講演会「縄文文化と札幌の遺跡」

平成 25 年 2 月 16 日　北海道立道民活動センター「かでる２・７」

・埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」

平成 24 年 11 月 1 日～平成 25 年 3 月 29 日　埋蔵文化財センター展示室

【平成 25 年度】

・確認調査現地見学

平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日（確認調査実施日）　H508 遺跡（現地）

・中高生体験発掘

平成 25 年 8 月 6 日～9 日　H508 遺跡（現地）

・遺跡見学会

平成 25 年 8 月 24 日　H508 遺跡（現地）

・出前展示「さとらんどの遺跡展」

平成 25 年 8 月 24 日　H508 遺跡（現地）

・講演会「遺跡公園の活用を考える」

平成 25 年 9 月 23 日　北海道立道民活動センター「かでる２・７」

・埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」

平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日　埋蔵文化財センター展示室

第3章　丘珠縄文遺跡の概要

1　札幌の縄文遺跡

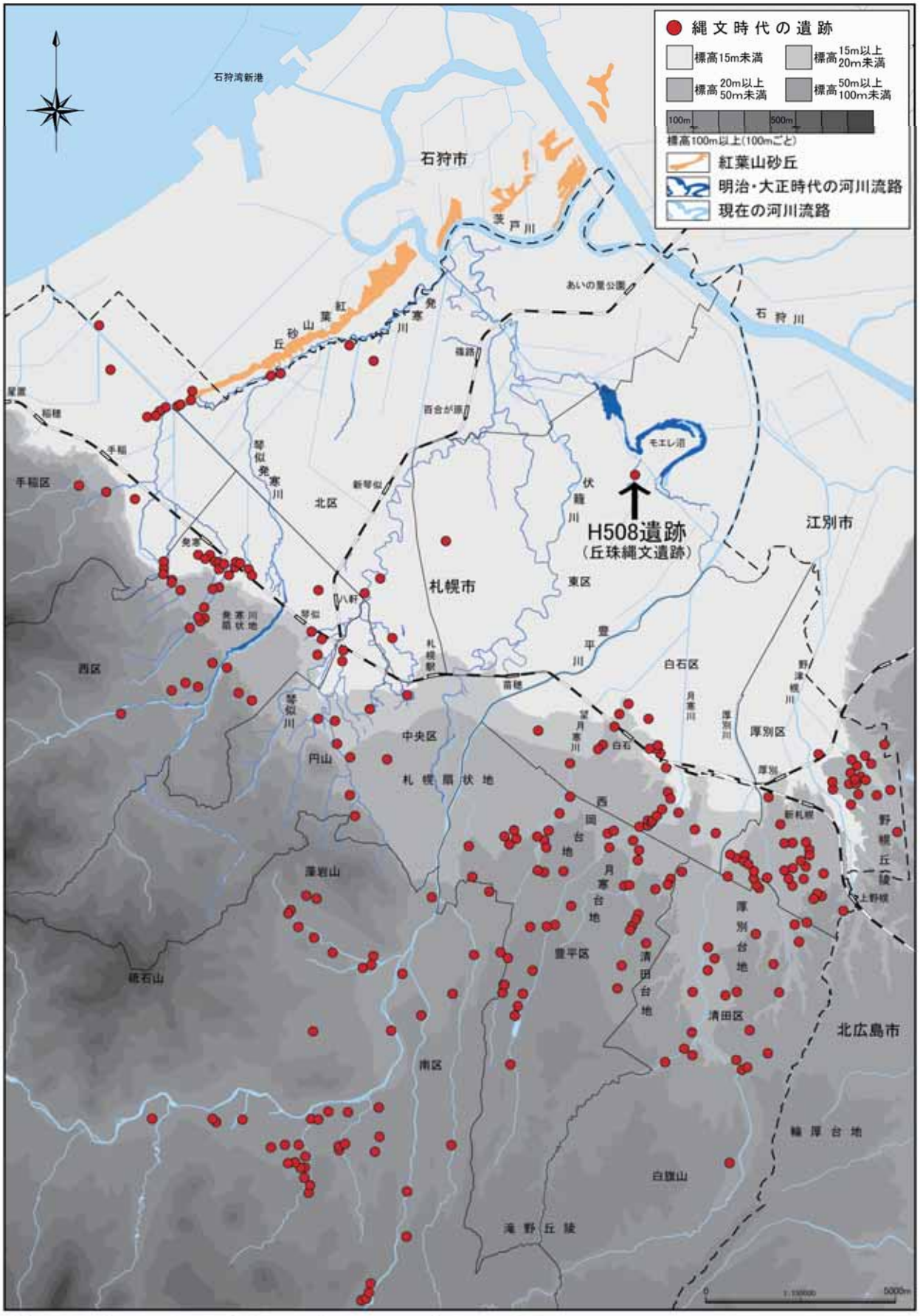
札幌市は、北海道の中央部と西南部とを地形的に隔てる低地帯（石狩低地）の日本海側に位置し、南北 45.4km、東西 42.3km、面積 1,121.12km² の広さを有しています。札幌市内の地形は多様で、中心市街地は豊平川や発寒川により形成された扇状地（せんじょうち）上に広がり、北西～南西部は山地で、東部には丘陵地や台地が続きます。一方、北部には沖積（ちゅうせき）平野（石狩平野）が広がり、その北西側の発寒川沿いには、紅葉山砂丘とよばれる古砂丘が南西から北東方向に延びています。

このように多様な地形を有する札幌市内では、これまでの調査で 500 カ所以上の遺跡が発見されています。そのうち 264 カ所の遺跡で、縄文文化の早期から晩期にかけての遺構や遺物が発見されています。これらの縄文遺跡は、比較的標高の高い東部の台地や丘陵地に最も多く分布し、次いで、その北西側に広がる札幌扇状地や発寒川扇状地に多くみられます。一方、北部に広がる沖積平野では、やや標高の高い紅葉山砂丘を除き、縄文文化の遺跡は数カ所しか発見されていません。

時期的な移り変わりをみると、縄文早期には東部の台地や丘陵地でのみ遺跡がみられ、次の縄文前期になると発寒川扇状地にも遺跡が残されるようになります。縄文前期は、縄文早期の頃はじまった地球規模の温暖化現象の最盛期にあたり、海面が上昇して内陸部まで海水が入り込んだことが知られています（縄文海進（じょうもんかいしん）※7）。市内でも北部に内湾が成立し、内湾と外海を隔てる紅葉山砂丘も、この頃より形成されたものと考えられています。この時期には、日本各地で貝塚が形成されますが、今のところ札幌市内では見つかっていません。

次の縄文中期になると、全国的な傾向と同様に、札幌市内でも遺跡数が増加し、東部の台地・丘陵地や発寒川扇状地に加え、標高 5m前後の紅葉山砂丘まで活動の領域が広がっていきます。さらに、縄文中期後半から後期になると、それまでほとんど遺跡が残されることのなかった札幌扇状地や沖積平野の低地部にも、少数ながら遺跡が残されるようになります。この傾向は縄文晩期にも引き継がれ、次の続縄文文化へと続いていきました。

※7）約 8000～6000 年前頃に、日本近海で現在に比べて海面が 2～3m高くなり、日本各地で海水が陸地奥深くに浸入した現象。



第1図　市内の縄文遺跡の分布とH508遺跡の位置

第1表　さとらんどの遺跡年表

おもなできごと（日本列島）	本州の時代区分		年代	北海道の時代区分※		おもなできごと（北海道）
槍の使用がはじまる	旧石器文化		20000年前	旧石器文化		北海道に人が住みはじめる 細石刃文化が広がる
			16000～15000年前			
土器の使用がはじまる 竪穴住居がつくられはじめる 弓矢の使用がはじまる 土偶がつくられはじめる	縄文文化	草創期		縄文文化	草創期	北海道で土器の使用がはじまる
気候の温暖化 縄文海進			10000年前			
		早期			早期	竪穴住居がつくられる 石刃鏃文化が波及する 札幌北部の低地が内湾となる
大規模な貝塚が形成される			7000年前			大規模な貝塚が形成される
		前期			前期	
			5500年前			
		中期			中期	紅葉山砂丘に人が住みはじめる
			4500年前			
		後期			後期	ストーンサークルがつくられる 周堤墓がつくられる
東日本に亀ヶ岡文化が広がる		晩期	3000年前		晩期	亀ヶ岡文化の影響を受ける
			2300年前			H508遺跡（丘珠縄文遺跡） H317遺跡（下層）
水稲耕作がはじまる	弥生文化			続縄文文化		H509遺跡
邪馬台国 前方後円墳がつくられる	古墳文化				オホーツク文化	オホーツク海沿岸に北方系のオホーツク文化が広がる
仏教の伝来 大化の改新		飛鳥時代				
平城京に都がうつされる			1300年前			カマド付の竪穴住居がつくられる 鉄製品が一般化する 穀類が普及する H317遺跡（上層）
	奈良時代			擦文文化		
平安京に都がうつされる	平安時代					
鎌倉幕府がひらかれる	鎌倉時代		800年前			土器にかわり鉄鍋が普及する 平地式住居がつくられる
室町幕府がひらかれる	室町時代			アイヌ文化期		
戦国時代	安土・桃山時代					チャシが築造される
江戸幕府がひらかれる	江戸時代					

※北海道の時代区分は、考古学における一般的な時代区分を示しています。

このような分布の移り変わりを示す市内の縄文文化の遺跡からは、当時の生活の拠点である竪穴住居、お墓や貯蔵穴、動物を狩るための落とし穴などが見つかっています。ただし、数十～数百軒の竪穴住居跡が残されるような、長期間にわたって繰り返し人々が生活したことを示す大規模なムラ（集落）の跡は、市内では見つかっていません。これまでの調査では、お墓と考えられる土坑が数十～数百基残された遺跡は見つかっていますが、それ以外は数軒～十数軒の竪穴住居跡や数カ所～数十カ所の落とし穴が見つかる程度の、規模が小さな遺跡です。古くからの開発で、すでに破壊されてしまった可能性もありますが、小規模な遺跡が多いことも、札幌市内の縄文遺跡の特徴と言えます。

2　遺跡の位置と周辺の環境

（1）地理的環境

H508 遺跡（丘珠縄文遺跡）は、札幌市の北部に広がる沖積平野（石狩平野）に立地する縄文晩期の遺跡です。遺跡付近における現在の地表面の標高は 5m前後、縄文晩期の旧地表面の標高は 3m前後と、低い土地に残された遺跡です。

石狩平野は、縄文早期の後半から前期頃の「縄文海進」により内湾が形成されていたと考えられており、H508 遺跡の付近も、その頃は湾奥の環境だったと推定されます。その後、海水準がわずかに低下するとともに、河川からの土砂による埋積が進み、内湾域は徐々に平野となっていきます。蛇行する河川が氾濫を繰り返しながら土砂を堆積させることで、平野部に氾濫原（はんらんげん）が発達し、微高地（自然堤防）が形成されました。縄文晩期には、この平野部に人々が進出し、河川に沿った微高地を活動領域としました。こうして、H508 遺跡は形成されたものと考えられます。

遺跡の北東側に位置するモエレ沼は、「縄文海進」後の氾濫原を蛇行した河川の名残（三日月湖（みかづきこ））です。最近の札幌市博物館活動センターによるボーリング調査の結果などから、この三日月湖は石狩川により形成されたと考えられています。すなわち、石狩川の本流ないし支流が、縄文晩期頃に、遺跡の近くを流れていた可能性があり、H508 遺跡がのる微高地の形成にも関わったものと推測されます。

（２）歴史的環境

北海道には、25000 年前頃には北東アジアや東アジアから人々[※8]が渡来し、旧石器文化が広がります。その後、15000 年前頃からはじまる気候の温暖化に伴い、北海道も本州と同じように、狩猟・漁撈・採集を生業とし竪穴住居で生活する縄文文化へと移り変わります。縄文文化のあと、本州では水稲耕作がはじまり弥生文化となりますが、北海道では稲作は広がらず、北海道の環境に適応した狩猟・漁撈・採集を中心とする続縄文文化に変わります。本州で奈良時代がはじまる頃、北海道では、土器のかたちや竪穴住居の作り方、鉄製品の製作や穀類の栽培等、本州の文化の影響を受けて、擦文文化（さつもんぶんか）がはじまります。本州で平安時代が終わり鎌倉時代になる頃、北海道では、土器が作られなくなり、擦文文化が終わります。これ以降の本州の中世から近世に相当する時期を、北海道ではアイヌ文化期[※9]と呼び、この時期を通して、アイヌ文化[※10]が形成されていったと考えられています。

江戸時代になると、文献記録の中にアイヌ文化期の札幌に関する記述が認められるようになります。アイヌ語に由来する「札幌」[※11]の名称は、17 世紀後半に弘前藩の関係者により記録された『津軽一統志（つがるいっとうし）』の中に、「さつほろ」として認められ、『津軽一統志』や同じく弘前藩の記録である『寛文拾年狄蜂起集書（かんぶんじゅうねんえびすほうきしゅうしょ）』には、「さつほろ」（札幌）や「はつしやふ」（発寒）にコタンがあったことが記されています。

丘珠地区では、縄文文化のあと、H508 遺跡に近接する H317 遺跡の調査等で、続縄文文化初頭の炉跡や土器・石器、また、擦文文化のムラ（集落）の跡が見つかっています。アイヌ文化期の丘珠地区の様子については、今のところよくわかっていませんが、文献記録では、『津軽一統志』の中に「さつほろの枝川に縦横半里計の沼御座候由」との記載があり、丘珠地区の北東に位置するモエレ沼を指すものと考えられています。北海道の他の地域と同じように、「丘珠」[※12]や「モエレ」[※13]をはじめとしたアイヌ語に由来する地名があることから、丘珠周辺でも、アイヌの人々[※14]が活動していたものと考えられます。

近世末になると、慶応 2 年（1866 年）に、徳川幕府の命を受けた大友亀太郎が伏籠川のほとり（現在の東区北 13 条東 16 丁目付近）に入植し、「御手作場（おてさくば）」（模範農場）を開いて大友堀を開削するなど、丘珠地区のある東区では、明治時代以降の札幌の基礎が形づくられていきます。

大友亀太郎の入植にはじまる元村の北東に位置する丘珠地区は、明治 3（1870）年の酒田県（現在の山形県の一部）からの入植にはじまり、明治 4（1871）年に「丘珠村」という村号が定められ、明治 35（1902）年には元村、苗穂村、雁来村とともに「札幌村」として統合されます。

明治時代以降、牧草地、畑地、水田として土地利用がはかられ、大正時代を経て、札幌を代表するタマネギの優良産地となりました。また、昭和 17（1942）年に旧日本軍により丘珠飛行場（現在の丘珠空港）が開設され、昭和 30（1955）年には札幌市に合併、昭和 47（1972）年に札幌市が政令指定都市となり東区が設置されると、農村地帯であった丘珠地区にも市街化の波が押し寄せ、宅地化が進行していきます。

平成に入ると、サッポロさとらんどやモエレ沼公園、丘珠空港周辺の緑地など、大規模な施設・公園・緑地が整備され、札幌の都市型農業の拠点として、また、みどり豊かな施設が集積する交流拠点として位置付けられています。現在の丘珠地区は、札幌駅を中心とした 5～10km 圏内に位置し、札幌の市街地に隣接して、農地や緑地、川辺など、平地のみどりが広がる自然豊かな地域です。

※8）近年のミトコンドリア DNA 分析では、「北海道の縄文人が保持していたのは、より北方の沿海州の旧石器時代人につながると考えられる DNA」であり、日本列島への人類の渡来は「従来いわれてきた南方ルートだけではなく、多様なルートを想定する必要がある」とされています（篠田謙一･安達登 2010「DNA が語る「日本人への旅」の複眼的視点」『科学』vol.80 No.4 岩波書店）。

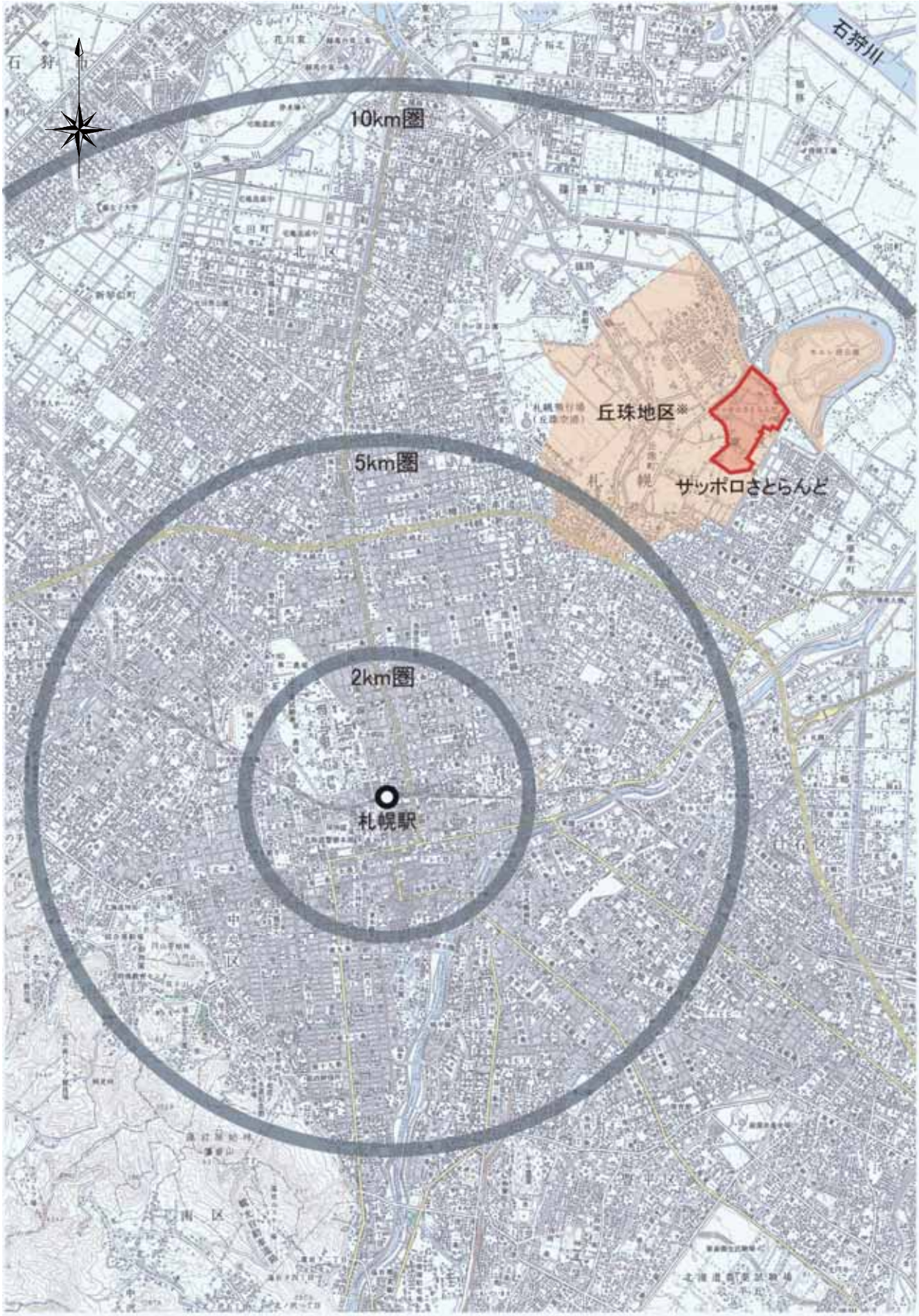
※9）考古学では、北海道で擦文文化が終わったあと、本州の中世・近世に相当する時期を「アイヌ文化期」と呼んでいます。

※10）現在アイヌ文化として捉えられている文化は、「近世に松前藩や本州の役人・旅行家が残した記録や近代から現代にかけて行われた民族学的調査によって明らかになっている」文化であると考えられています。なお、「縄文文化・続縄文文化に後続する擦文文化からアイヌ文化への移行については、その担い手に大きな変化がないとの見解から、北海道の縄文時代・旧石器時代までもアイヌ文化とすればいいと主張する方も」いますが、「各文化期の内容の差は大きく、縄文土器を使用し、竪穴住居に住むアイヌ文化といった表現は、現在の『アイヌ文化』の概念とは大きくかけ離れてしま」います（長沼孝･越田賢一郎 2011「時代の概観」「Ⅰ　考古学から見た北海道」『新版 北海道の歴史 上』北海道新聞社）。

※11）諸説ありますが、松浦武四郎の記録にあるように、「サッ・ポロ・ペッ（sato-poro-pet　乾く・大きい・川）ぐらいに解するのが自然」（山田秀三 1984『北海道の地名』北海道新聞社）。

※12）「オッカイ・タ$_{ム}$・チャラパ。男の・刀を・落としたる所。川名。」（永田地名解）。
「この地名の前段の「オ$_{ク}$カイタ$_{ム}$」が和人に継承されて「丘珠」になったものらしい」（山田秀三 1965『札幌のアイヌ語地名を尋ねて』楡書房）。

※13）「モイレ・ペッというのは、川の曲がった処等で、ゆっくりと水が流れている川の事」。「モイレが普通で、モエレは訛音（かおん）か、或いは方言」（山田秀三 1965『札幌のアイヌ語地名を尋ねて』楡書房）。



※丘珠地区網掛け範囲：丘珠連合町内会の区域

第2図　丘珠地区と「サッポロさとらんど」の位置

※14）アイヌの人々は、「日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族であり、独自の言語や文化を育んできました」（札幌市 2010「第 1-1 アイヌ民族の先住民族としての歴史」『札幌市アイヌ施策推進計画』）。なお、形質人類学の研究では、「日本列島に住むようになった東南アジア系集団と、主として弥生時代以後に渡来した北アジア系集団との混合によって日本人集団が形成された」とする「二重構造モデル」に基づき、アイヌの人々は「縄文人の伝統を最も濃厚に受けついだ人たち」だと考えられてきました（埴原和郎編 1994『日本人の起源〈増補〉』朝日選書）。一方で、最新の研究では、「北海道アイヌの祖先集団とオホーツク人は、これまで想定されていた以上に、活発な文化的・遺伝的交流を行っていたのではないか」との見解が提示されています（百々幸雄、川久保善智、澤田純明、石田肇 2013「頭蓋の形態小変異からみたアイヌとその隣人たち Ⅲ. 隣接集団との親疎関係」『Anthropological Science Vol. 121(1)』日本人類学会）。また、最新の DNA 分析でも、北海道の「基層集団が歴史時代を通じてオホーツク文化人や本土の日本人との交流を経てアイヌ集団へと変貌していった経緯を読み取ることができる」と言われています（篠田謙一・安達登 2010「DNA が語る「日本人への旅」の複眼的視点」『科学』vol.80 No.4 岩波書店）。

3　サッポロさとらんどと周辺の文化施設

H508 遺跡が所在するサッポロさとらんどは、「人と農業・自然とのふれあい」、「都市と農業の共存」をテーマとする農業体験交流施設であり、市民が農業や自然とふれ親しみ、体験しながら憩い、楽しむことができる田園空間と本市の都市型農業を総合的に支援する拠点を一体的に創出することを目的とした施設です。

また、サッポロさとらんどの周辺には、イサム・ノグチの設計によるモエレ沼公園をはじめとして、丘珠緑地、丘珠空港緑地、札幌コミュニティードーム「つどーむ」など、文化施設や緑地が多く整備されています。

この他に、昭和 49 年に本市の無形文化財第一号に指定された丘珠獅子舞は、毎年丘珠神社の例祭で奉納されています。

【札幌市農業体験交流施設サッポロさとらんど】

・所在地：東区丘珠町 584－2 ほか
・管理：指定管理者（平成 18 年度～）
・面積：約 102ha（施工済約 74.3ha）
・オープン：平成 7 年 7 月
・営業日：4/29～11/3（無休）、11/4～4/28（月曜日、年末年始休園）
・入園者数：653,220 人（平成 24 年度実績※15）

・主要施設：さとらんどセンター、レストハウスみのりの家、レストハウスまきばの家、風のはらっぱ、市民農園、体験農園、ふれあい牧場、さとらんどガーデン、炊事広場、さとの池、パークゴルフ場、さとらんど交流館、ミルクの郷（サツラク農業協同組合管理）など
・駐車場：7 カ所（1,800 台収容）
・交通：市営地下鉄南北線北 34 条駅、市営地下鉄東豊線環状通東駅、新道東駅→中央バス→丘珠高校前バス停（約 15～20 分）→徒歩（約 10 分）
※都心（大通り）から車で約 30 分

【周辺の文化施設等】
・モエレ沼公園：総面積 170ha の市内最大規模の総合公園
入園者数 704,970 人（平成 24 年度実績※16）
・丘珠緑地：伏籠川の遊水地を活用した都市緑地
・丘珠空港緑地：緩衝機能、スポーツ空間機能、雨水調節機能を持つ都市緑地
・札幌コミュニティードーム「つどーむ」：全天候型の多目的施設
・丘珠獅子舞：札幌市指定無形文化財（昭和 49 年 10 月指定）

※15）札幌市の主な観光施設利用者数の第 4 位（『平成 25 年度版　札幌の観光』平成 25 年 10 月）
※16）札幌市の主な観光施設利用者数の第 2 位（『平成 25 年度版　札幌の観光』平成 25 年 10 月）

4　サッポロさとらんどの遺跡とその調査経緯

サッポロさとらんどでは、これまでの調査で 3 カ所の遺跡が見つかっています。

一つ目は、現在の「ミルクの郷」（サツラク農業協同組合牛乳工場）付近から見つかった擦文文化（約 1000 年前）と続縄文文化（約 2000 年前）の遺跡（H317 遺跡）です。この遺跡からは、工場の建設に先立って平成 4・5 年に実施した発掘調査で、擦文文化の竪穴住居跡 12 軒や、続縄文文化の炉跡 93 カ所が発見され、当時の生活の様子が明らかになっています。遺跡は現地に残っていませんが、発掘調査で見つかった土器や石器は埋蔵文化財センターに収蔵し、その一部はさとらんどセンターに展示しています。なお、発掘調査の記録は報告書（『H317 遺跡』札幌市文化財調査報告書 46）としてまとめており、札幌市中央図書館で閲覧することができます。

第3図　「サッポロさとらんど」と遺跡の位置　S≒1/8000

第 2 表　さとらんどの遺跡の沿革

年度	項目	概要
昭和 49 年 3 月	H317 遺跡登載	H317 遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地として遺跡台帳に登載される。
平成 4 年 5 月	「（仮称）札幌里づくり事業基本計画」策定	農業公園構想が具体化し、都市と農業の共存、人と自然とのふれあいをテーマとした事業計画が策定される。
平成 4 年 6～7 月	試掘調査 （さとらんど I 期工事範囲）	試掘調査の結果、H317 遺跡の範囲から擦文時代の遺構・遺物が発見される。
平成 4 年 8～11 月 平成 5 年 5～10 月	H317 遺跡発掘調査	発掘調査の結果、擦文時代の竪穴住居跡 12 軒、続縄文時代の炉跡 93 カ所などが検出される。
平成 5 年 7 月	試掘調査 （現 H508 遺跡周囲）	現在の「風のはらっぱ」の南側付近（C・D 地区：現 H508 遺跡）から縄文時代晩期の土器・石器が発見され、約 25,000 ㎡の範囲に縄文時代晩期の遺跡が広がることが確認される。
平成 5 年	H317 遺跡 C・D 地区盛土保存	H317 遺跡 C・D 地区（現 H508 遺跡）が、盛土により現状保存される。
平成 6～7 年	試掘調査 （さとらんどⅡ期工事範囲）	現在の農業支援センター圃場付近で、続縄文時代の遺物が発見され、盛土により現状保存される（現 H509 遺跡）。
平成 7 年	「サッポロさとらんど」（第 I 期エリア）オープン	「サッポロさとらんど」第 I 期エリアの供用が開始される。
平成 12 年 9 月	H508 遺跡、H509 遺跡登載	H317 遺跡 C・D 地区が、H317 遺跡とは別の遺跡である H508 遺跡として遺跡台帳に登載される。H509 遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地として遺跡台帳に登載される。
平成 16 年	「サッポロさとらんど」（第Ⅱ期エリア）オープン	「サッポロさとらんど」第Ⅱ期エリアの供用が開始される。

二つ目は、現在の「風のはらっぱ」の南側から見つかった縄文晩期（約 2300 年前）の遺跡（H508 遺跡：丘珠縄文遺跡）です。この遺跡からは、平成 4・5 年に実施した遺跡の有無を調べる予備的な調査（試掘調査）で、広い範囲から土器や石器が見つかっており、市内でも有数の広がりを持つ縄文文化の遺跡であることが明らかになっています。H508 遺跡は、上述したとおり、現在、盛土されて地下に保存されています。

三つ目は、現在の農業支援センターの圃場（ほじょう）付近から見つかった続縄文文化（約 2000 年前）の小規模な遺跡（H509 遺跡）で、この遺跡も地下に現状のまま保存されています。

この 3 カ所の遺跡のうち、市内でも有数の広がりを持つ縄文文化の遺跡である H508 遺跡を活用して、遺跡公園を整備する事業が、「第 3 次札幌新まちづくり計画」に位置づけられ、平成 25 年度には、遺跡公園の整備に向けて、H508 遺跡の確認調査を実施しています。確認調査は、整備の具体的な内容を定める基本計画の策定に向けて、平成 26 年度も実施する予定です。

5　確認調査の方針と方法

（1）調査方針

H508 遺跡を活用した遺跡公園の整備に向けて、遺跡の具体的な内容を把握するための確認調査は、遺跡が沖積平野の低地部に所在することを踏まえ、次の方針のもと実施しました。

・遺跡全体を対象にトレンチ調査※17 を行い、地層の連続性を把握し、当時の地形や遺物包含層（ほうがんそう）※18 の状態を確認します。

・遺構の有無を確認し、その内容・分布状況の把握に努め、確認した一部の遺構については、保存を前提とした部分的な調査を行い、動植物遺存体の回収等を通して、遺構の性格を把握します。

※17）トレンチ（trench）とは堀や溝のことで、考古学の発掘調査では、細長い溝を掘って行う調査を「トレンチ調査」と呼びます。

※18）土器や石器等の遺物が出土する地層。

（２）調査方法

確認調査は、平成 25 年 6 月 24 日～9 月 19 日に実施しました。このうち、平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日に、市民ボランティアの参加のもと、集中的に作業を進めています。

確認調査では、まず、H508 遺跡の試掘調査や H317 遺跡の発掘調査の成果等から想定される埋没河川[※19]の流路を踏まえ、トレンチ調査により微地形を把握する目的で、遺跡範囲の南辺を Y 軸方向の基線とする X 軸と Y 軸とからなる発掘区を設定しました。X 軸と Y 軸との関係は数学系座標と同様であり、発掘区方眼は 10m×10mを基本単位とします[※20]。

次に、発掘区方眼の X 軸 10 区の西壁沿いに 4 カ所、X 軸 14 区の西壁沿いに 2 カ所、Y 軸 09 区の北壁沿いに 4 カ所、合計 10 カ所で幅 2～3m程の調査区（調査区 001～010）を設定し、さらに、発掘区方眼の軸線に沿って、調査区内に幅 1mのトレンチを設定しました。

調査区の盛土を重機で除去した後、人力で自然堆積層の上面を精査し、トレンチを掘削しました。トレンチ掘削後、土層堆積状況の観察結果に基づき、出土した遺物は、層毎にトータルステーション[※21]を用いて座標点を記録して取り上げました。検出した遺構は、炉跡（HE）、焼土粒集中（DB）、炭化物集中（DC）に分け、トータルステーションを用いて平面外形を記録後、一部の遺構について、部分的な土壌のサンプリングを行いました。炉跡の一部については、火床[※22]上に堆積する土壌をサンプリングし、火床を検出した段階で調査を終了しています。

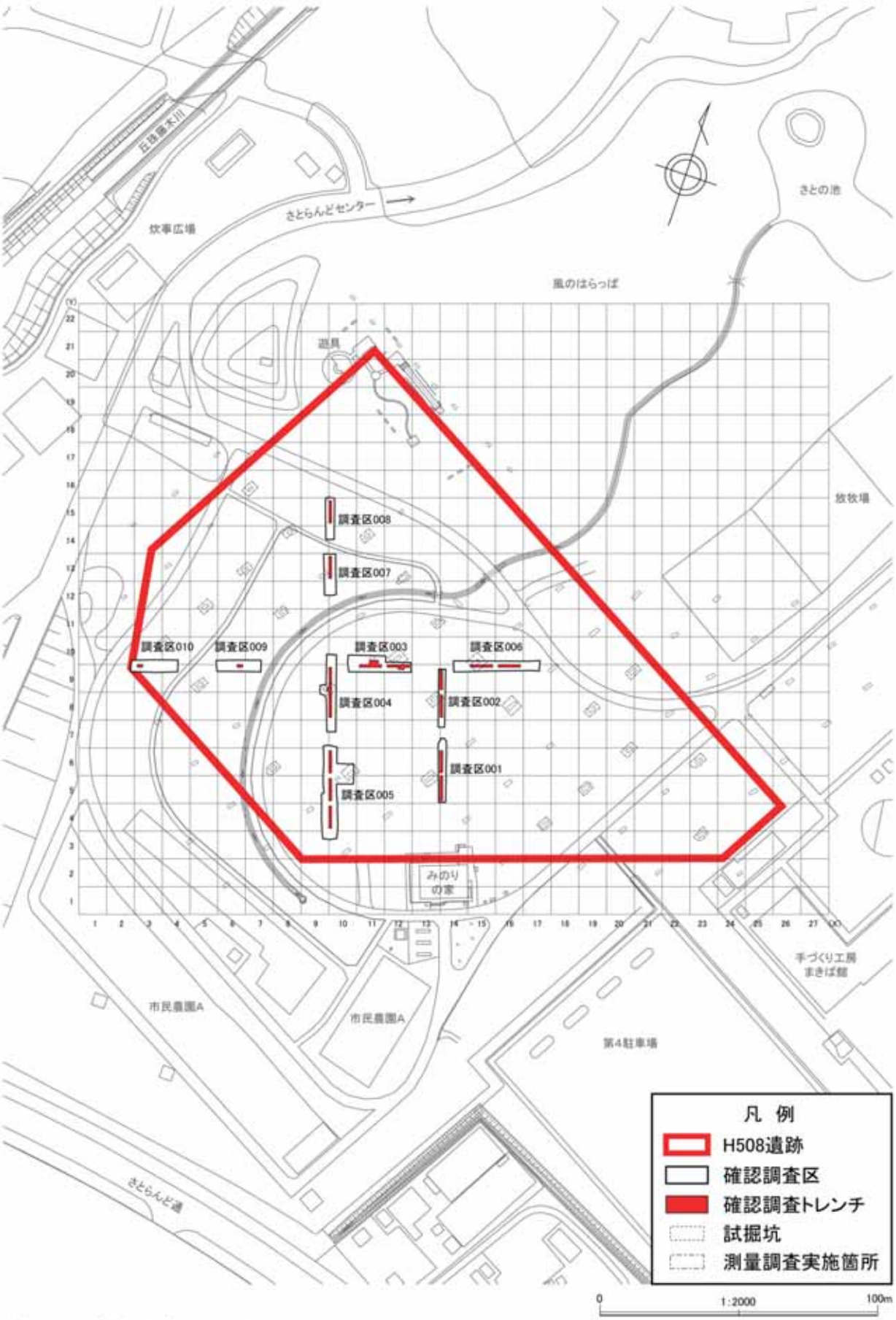
なお、遺構・遺物の分布が疎な範囲については、包含層を掘削し、下位の土層の確認を行いましたが、遺構・遺物の分布が密な範囲については、複数枚の包含層のうち、上部の包含層のみを調査して作業を終了しています。

※19）土砂が堆積して埋まってしまった河川の跡。

※20）発掘調査では、一般的に、遺跡全体に方眼紙をかぶせるように格子目の地割りを行って、発掘区を設定します。発掘区のひとつひとつの区画（発掘区方眼）は、数学のグラフと同じように横軸（X軸）の番号と縦軸（Y軸）の番号の組み合わせで呼称します。

※21）距離と角度を同時に計測することができる測量機械で、一般的に狭い範囲での高精度な測量に利用されます。

※22）「ひどこ」ないしは「かしょう」と読みます。火を焚いて地面が赤く焼けたところ。赤く焼けた土を「焼土」（しょうど）と呼びます。


丘珠東木川
さとらんどセンター
炊事広場
きとの池
風のはらっぱ
遊具
放牧場
調査区008
調査区007
調査区010
調査区009
調査区003
調査区006
調査区004
調査区002
調査区001
調査区005
みのりの家
手づくり工房
まきば館
市民農園A
市民農園A
第4駐車場
さとらんど通
凡　例
H508遺跡
確認調査区
確認調査トレンチ
試掘坑
測量調査実施箇所
0
1:2000
100m

第4図　確認調査区配置

6　丘珠縄文遺跡の概要

（1）地層と地形

H508 遺跡を構成する土壌は、主に河川堆積物で、粘土、粘土質シルト、砂質シルト、細砂から構成されています。これらの自然堆積層のうち、確認調査では、連続して堆積する 5 枚の層から、土器や石器など縄文晩期の遺物が出土しました。また、5 枚の包含層のうち、下位の 3 枚の包含層で、炉跡（HE）、焼土粒集中（DB）、炭化物集中（DC）を検出しました。

トレンチの土層断面を記録し、10 カ所の調査区において縄文晩期の包含層の標高を比較した結果、調査区 001、002、003、004、005（北端）、009 が他の調査区よりも数十㎝高いことが判明しました。また、調査区 005 の南端における細砂の堆積状況から、縄文晩期頃の河川の流路は、想定されたとおり、遺跡の南側に存在した可能性が高いことがわかりました。

したがって、縄文晩期には、調査区 001、002、003、004、005（北端）、009 を囲った範囲を中心に微高地が広がっていたものと考えられ、この微高地は、調査区の南側を流れていたと推測される当時の河川により形成された自然堤防の高まりに相当するものと考えられます。

（2）遺構と遺物

遺構は、3 枚の包含層から、炉跡（HE）19 カ所、焼土粒集中（DB）8 カ所、炭化物集中（DC）2 カ所を検出しました。

遺物は、5 枚の包含層から、座標点で合計 2,900 点強が出土しました。

これらの遺構と遺物は、調査区 001、002、003、004、005 から集中的に検出されており、その分布範囲は、上述した自然堤防の高まりと一致しています。

また、遺構から採取した土壌サンプルについて、フローテーション法※23 を用い選別した結果、現在までの作業で、黒曜石等の石器砕片やクルミ属内果皮片（ないかひ）※24 といった微細遺物が比較的多く含まれ、その他にも、サケ科を主体とした魚骨片やチョウザメ科の鱗板（りんばん）片※25、植物の種子等が含まれていることが判明しています。

なお、植物の種子としては、市内の縄文文化の遺跡ではじめてヒエ属の種子が発見されました。

※23）浮遊選別法。土壌を水で溶き、比重の軽い遺物を浮遊させて回収する方法。

※24）内果皮とは、果実の内部の種子を直接包んでいる部分のこと。クルミの硬い殻の部分。

※25）鱗板とは、チョウザメ科の体の表面にみられる硬い鱗のこと。「硬鱗」（こうりん）とも呼びます。

（３）遺跡の概要

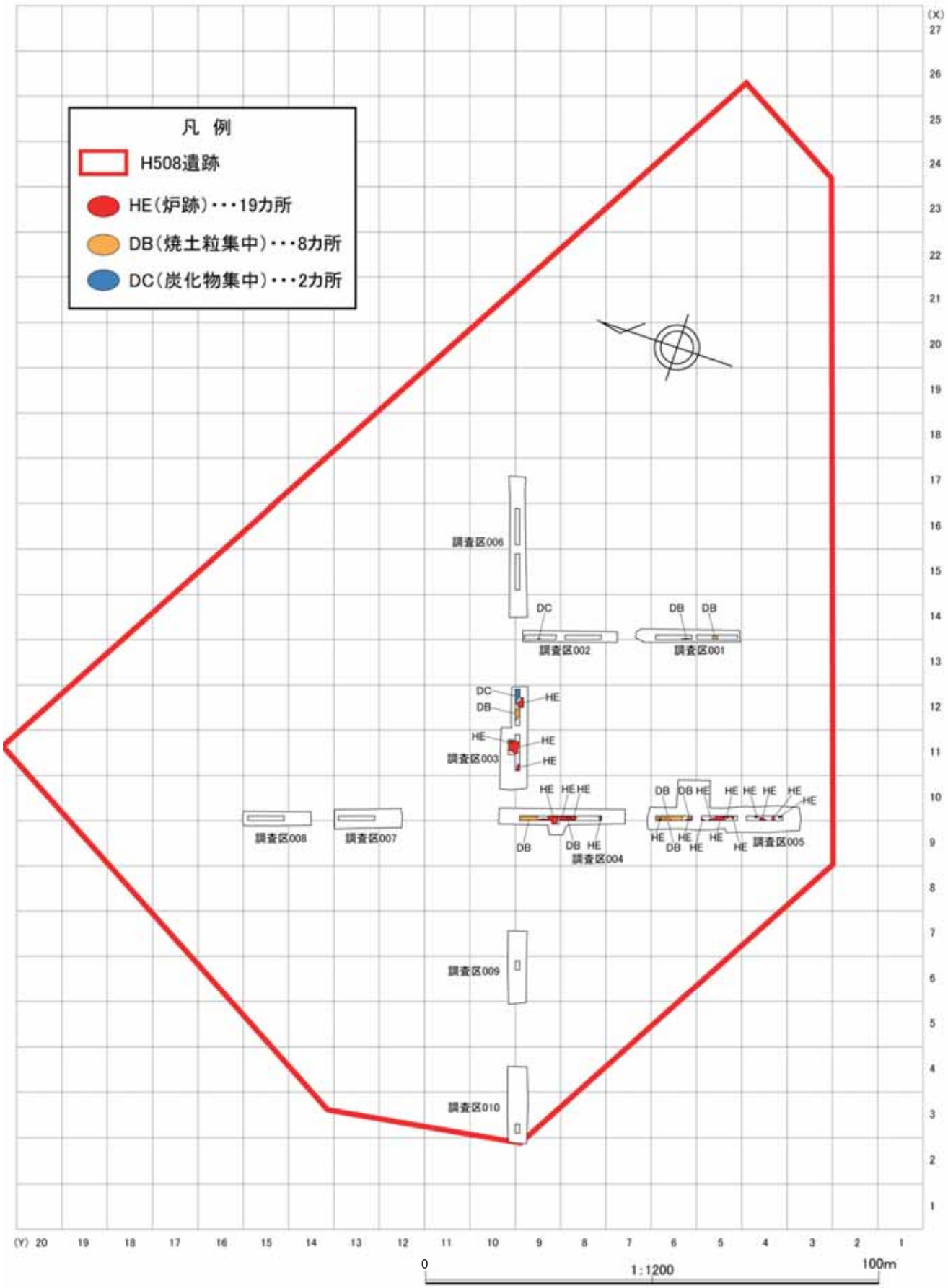
平成 25 年度の確認調査の結果、H508 遺跡は、少なくとも 5 枚の包含層からなる縄文晩期の多層遺跡であり、遺跡内南半の中央付近に広がる自然堤防と考えられる地形の高まりに、炉跡等の遺構や土器・石器等の遺物が集中して分布していることがわかりました。

炉跡周囲の土壌には、石器の砕片、クルミ属内果皮片、サケ科を主体とした魚骨片やチョウザメ科の鱗板片、植物の種子等が含まれており、炉を中心とした生産活動の一端を確認することができました。市内の縄文文化の遺跡ではじめて見つかったヒエ属の種子は、近接する H317 遺跡の続縄文文化初頭のヒエ属種子と合わせて、ヒエ属の栽培化や利用方法を検討する上で、たいへん貴重な資料と言えます。

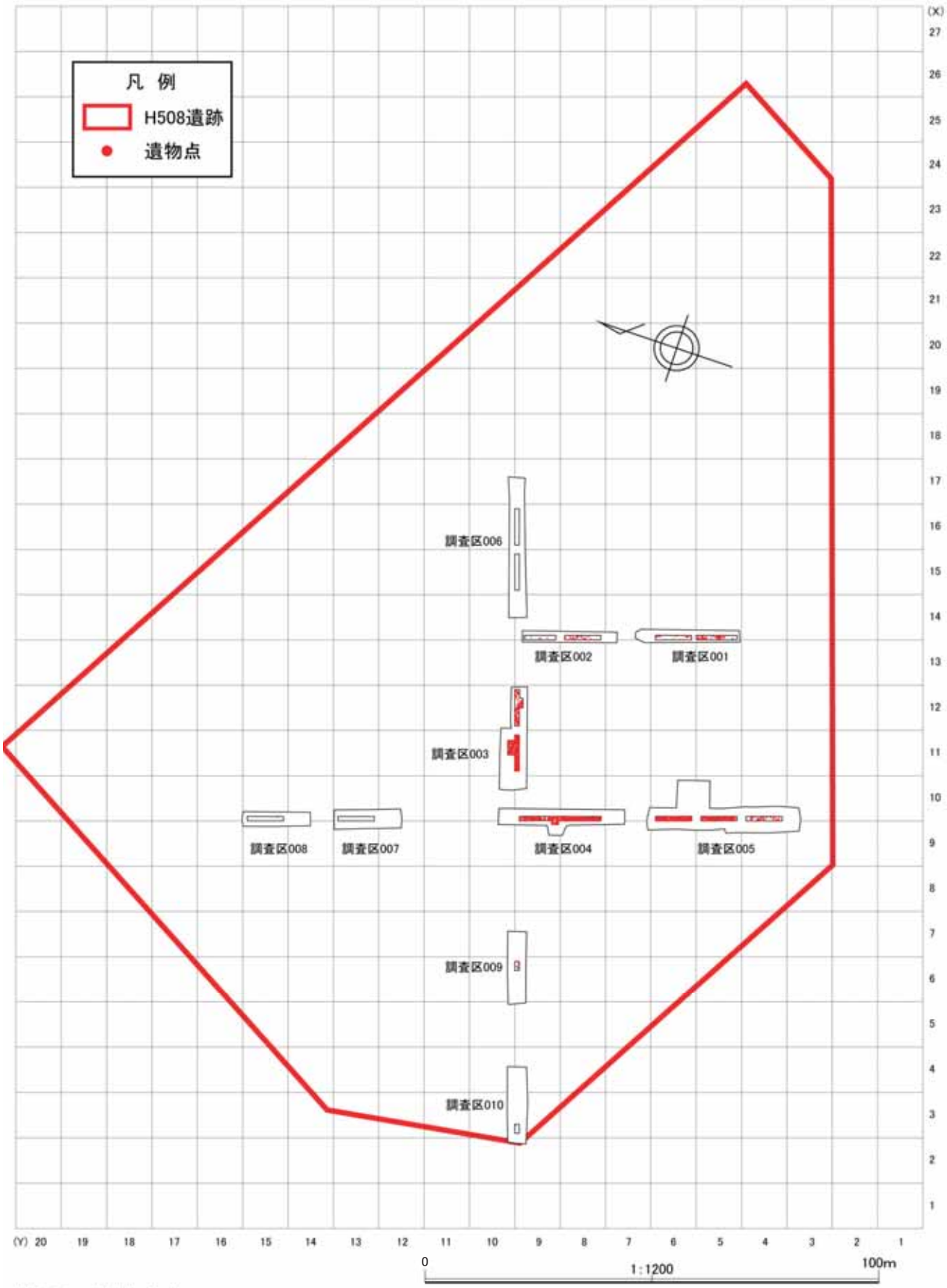
包含層が累積している状態から、H508 遺跡は、季節的に集中する生業活動に伴い形成された遺跡と推測されます。

なお、現在も整理作業を進めているため、以上の概要は、平成 25 年度の調査成果に関する中間報告的な位置付けとなります。最終的には、平成 26 年度に確認調査を実施した上で、放射性炭素年代測定※26 の結果などを含めて、詳細な内容を報告する予定です。

※26）最も普及している理化学的な年代測定法の一つで、自然界に存在する炭素同位体「炭素 14」（^{14}C）が、放射線を出して崩壊し「窒素 14」（^{14}N）に変化する半減期を利用して年代を測定する方法。


凡 例
H508遺跡
HE（炉跡）・・・19カ所
DB（焼土粒集中）・・・8カ所
DC（炭化物集中）・・・2カ所
調査区006
調査区002
調査区001
調査区003
調査区004
調査区005
調査区008
調査区007
調査区009
調査区010
DC
DB
HE
(X)
(Y)
0
1:1200
100m

第5図　遺構配置


凡 例
H508遺跡
遺物点
調査区006
調査区002
調査区001
調査区003
調査区008
調査区007
調査区004
調査区005
調査区009
調査区010
(X)
(Y)
0
1:1200
100m

第6図　遺物分布

写真図版 1　クルミ属内果皮片（H508 遺跡焼土粒集中から回収）

写真図版 2　ヒエ属種子（H508 遺跡炉跡から回収）

調査区004遺物出土状況（南から）

調査区005遺物出土状況（北から）

調査区003炉跡調査状況（北から）

調査区004炉跡調査状況（東から）

調査区004一括土器出土状況（西から）

調査区003一括土器出土状況（西から）

写真図版3　確認調査実施状況

第4章　整備の基本方針

1　整備の意義

H508 遺跡（丘珠縄文遺跡）は、約 25,000 ㎡と市内最大級の広がりを持ち、札幌の低地部に立地する縄文晩期の多層遺跡であり、広い範囲で良好に保存されている遺跡からは、当時の河川によって形成されたと考えられる自然堤防上から、炉跡や土器・石器などが集中して発見され、炉跡の土壌からは、サケ科を主体とした魚骨片、チョウザメ科の鱗板片、動物（哺乳綱）の骨片、クルミ属の内果皮片、ヒエ属の種子等、当時の生業や食生活を考える上で貴重な資料が見つかっています。

このような内容を示す H508 遺跡は、札幌の低地部を利用した狩猟・漁撈・採集等の季節的な生業活動が繰り返されることによって形成された遺跡と考えられ、縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと展開する札幌低地における生業形態の原形を示し、縄文文化から続く札幌の歴史を示す象徴的な遺跡のひとつと評価されます。

また、H508 遺跡からは、炉跡が重なるように発見され、炉跡の周囲から遺物が累積して出土していることから、細かい時期的な変遷を捉え、低地部の微高地上で繰り返された具体的な土地利用のあり方を解明し得る、学術的にも魅力的な遺跡と言えます。

この遺跡を活用して、豊かな地形環境に適応していった札幌の縄文文化の魅力を発信し、「食文化」をはじめとする縄文文化を体感できる場を創出します。

2　遺跡公園の位置付け

札幌市では、埋蔵文化財の調査・研究、資料の収集・整理・保存・活用、知識の普及等を行う拠点施設として埋蔵文化財センターを設置していることから、整備する遺跡公園については、H508 遺跡を活かして札幌の縄文遺跡の魅力を発信する活用機能に特化した体験型の施設を目指します。

また、札幌市の公共施設として、幅広い世代や立場の方々が利用しやすい遺跡公園を目指します。

３　遺跡公園のテーマ

札幌には豊かな地形環境に適応した縄文遺跡が残されています。その中でも、川辺に広がる微高地上に形成されたH508遺跡は、周辺の豊かな環境を活かした縄文の「食文化」を感じることができる遺跡であり、札幌の低地部における縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと展開する生業形態の原形を示す、象徴的な遺跡と言えます。

そこで、H508遺跡を活用した遺跡公園のテーマは、次のとおりとします。

『川辺に広がる札幌の縄文、その「食文化」をはじめとする縄文の体感』

４　整備の基本方針

上記のテーマに基づき、歴史的・文化的・教育的資産として遺跡を有効に活用することで、市民自らが作り上げる多彩な文化活動を振興していくために、次の４つの方針に則った整備を目指します。

なお、整備にあたっては、サッポロさとらんど内の施設と連携し、サッポロさとらんど全体の魅力アップを目指していきます。

（１）札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けたＨ５０８遺跡の整備
（２）縄文文化の体験と学びの展開
（３）市民との協働による遺跡の活用
（４）「学び」のネットワークづくりと市民交流の場の創出

５　整備の方向性

基本方針に基づく整備の方向性は、次のとおりとします。

（１）札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けたＨ５０８遺跡の整備

①「札幌の縄文」を発信します

縄文文化からアイヌ文化期を通じ、札幌の歴史のつながりを踏まえ、縄文文化の魅力を感じることができるように、札幌の縄文遺跡の情報を発信します。

② 縄文遺跡である H508 遺跡を適切に保存するとともに、遺跡の価値を継続的に探求・発信します

発掘調査の成果を踏まえ、縄文遺跡である H508 遺跡を適切に保存するとともに、市民との協働により継続的な調査･研究を行い、遺跡の価値を探求し、発信していきます。

（２）縄文文化の体験と学びの展開

① 縄文文化を体験できる活動を展開します

子どもから大人まで楽しみながら参加できる、H508 遺跡を活かした縄文の「食文化」をはじめとする縄文体験活動を展開し、市民との協働で発展させていきます。

② 縄文文化の学びの導入としてガイダンス施設を設置します

発掘調査の成果に基づき、H508 遺跡を活用して、札幌の縄文遺跡を学ぶ導入として、ガイダンス施設を設置します。

（３）市民との協働による遺跡の活用

① 遺跡の整備と活用・運営を市民との協働で進めます

市民参加による整備を進めるとともに、ガイダンス施設を拠点とした体験･学びなど、活用・運営を市民ボランティアとともに考えていきます。

② 地域に根ざした施設づくりを目指します

地域の歴史的・文化的資産として、地域の方々と連携し、施設の活用を考えていきます。

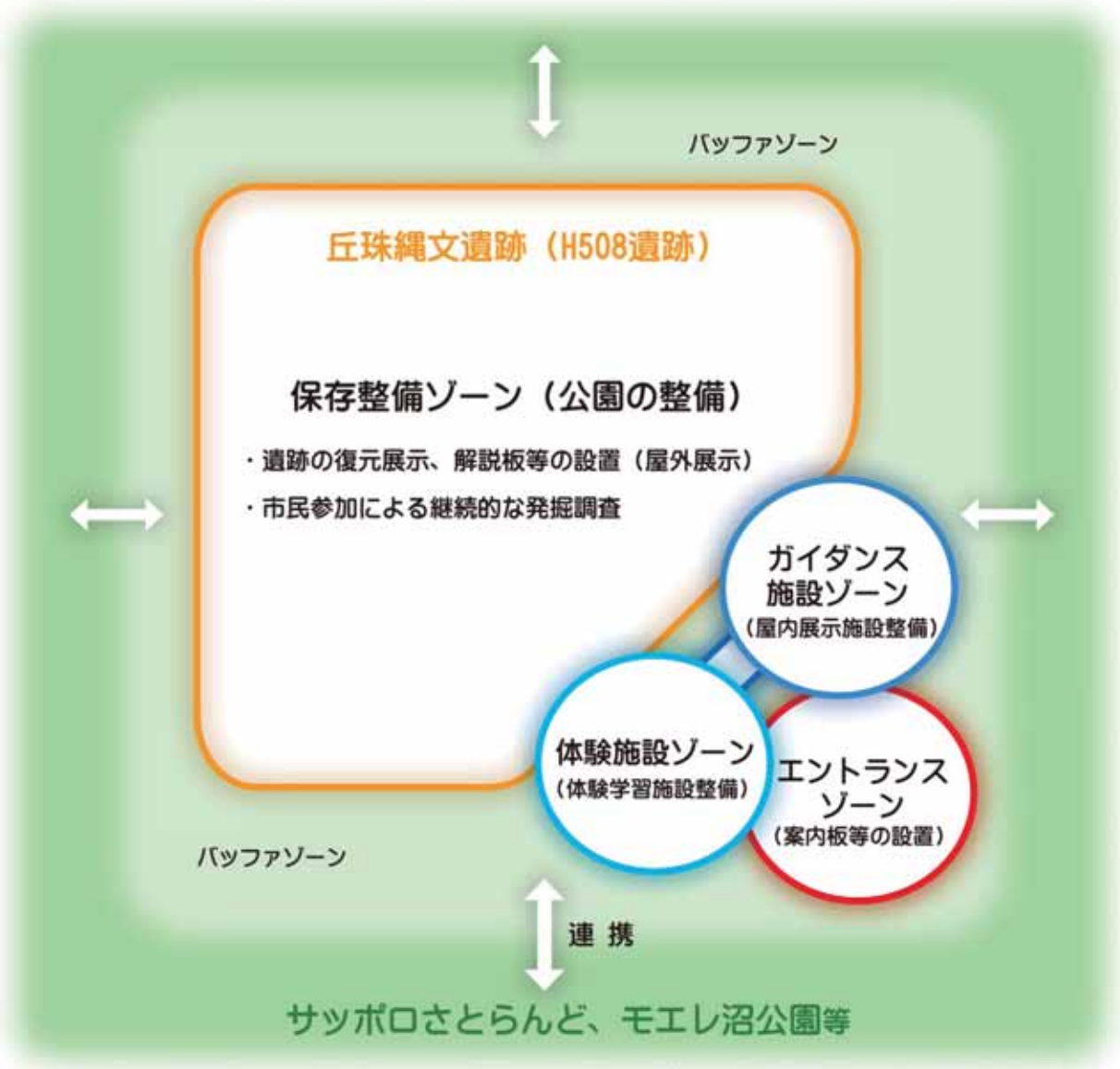
（４）「学び」のネットワークづくりと市民交流の場の創出

①「学び」のネットワークづくりを進めます

サッポロさとらんどやモエレ沼公園など、近隣の文化施設と連携し、地域の歴史や文化にふれることができるネットワークづくりを進めるとともに、縄文文化を中心に札幌の遺跡を学ぶことができるネットワークづくりも目指していきます。

② 市民交流の場を創出します

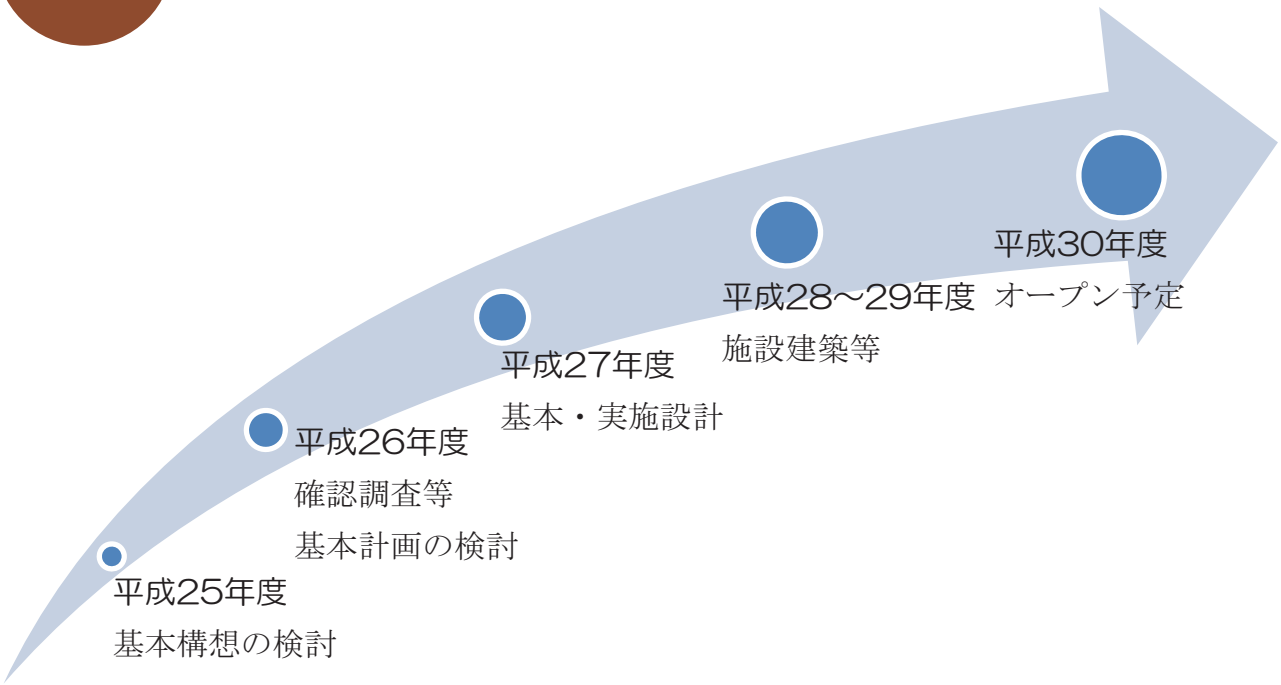
サッポロさとらんどと連携し、市内中心部からのアクセス等の利便性を検討し、市民交流の場を創出するとともに、体験活動ができる観光資源としての活用も目指していきます。



※具体的な整備内容については、確認調査の成果等を踏まえ、市民意見も参考にした上で、検討委員会で検討を進め、基本計画として策定する予定です。

第7図　遺跡公園の整備概念図

第5章　今後の計画



基本構想

整備活用の基本的な考え方の骨子を定めます。

基本計画

基本構想をもとに、確認調査の成果に基づく遺跡の内容を踏まえ、公園の整備、ガイダンス施設の整備、体験学習施設の整備、体験活動の内容等を具体化します。

基本･実施設計

基本計画を図面として整理し、材料･工法･経費･工期等の詳細について、設計図書としてまとめます。

・平成 26 年度は、基本計画検討委員会を設置し、基本構想に基づき、整備の具体的な内容・方法を盛り込んだ基本計画の検討を行います。

・今後も、市民参加のもとワークショップとして確認調査を行うなど、市民意見を活かした基本計画づくりを進めていきます。

附章　パブリックコメント手続

平成 26 年 6 月 7 日（月）に「(仮称) 丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想（案）を公表し、平成 26 年 7 月 8 日（火）までの 30 日間、市民の皆様からのご意見を募集しました。あわせて、パブリックコメント期間内に、子どもからのご意見（キッズコメント）が寄せられました。

1　実施概要

（1）意見募集期間

平成 26 年 6 月 9 日（月）～平成 26 年 7 月 8 日（火）（30 日間）

（2）意見提出方法

持参、郵送、FAX、E メール

（3）資料の配付場所

札幌市埋蔵文化財センター、札幌市役所 2 階市政刊行物コーナー、各区役所、

サッポロさとらんど、札幌市ホームページほか

2　パブリックコメント（大人の意見）の内訳

（1）意見提出者数

２１名（個人１８名、匿名３名）

（2）意見数

５１件

3　キッズコメント（子どもの意見）の内訳

（1）意見提出者数

５０名

（2）意見数

１４件（類似意見をまとめた数）

4　意見の概要と札幌市の考え方

類似した意見については、まとめさせていただいたうえで本市の考え方を示しています。

第１章　事業の目的				
No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
1	第１章	事業の目的	国が埋蔵文化財を活用したまちづくりを自治体に求めていることを根拠に、この基本構想を策定するのはいかがなものでしょうか。国の予算はいつ撤回されるかわからないものであり、札幌市として恒久的に維持していくことがむしろ困難になるのではないか、という議論が全くないことはおかしいと感じます。	本基本構想（案）は、本市として、札幌の特色ある文化財を積極的に活用していく方針のもと、地域の歴史資源、文化資源、教育資源として、市民の皆様とともに、丘珠縄文遺跡の価値を将来へ伝えていくことを目的に策定したものです。 今後も、地域の資源を恒久的に伝えていくことができるように、予算や運営体制等について、検討を進めていきます。

第２章　事業の位置付け				
No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
2	第２章 -2-(2)	基本構想の策定に至る経緯	H508 遺跡は、「アイヌ文化」や近現代の文化といった中世相当期以降の文化と関係がないにもかかわらず、関係委員会のメンバーにそのような分野に関わるとしか考えられない人物名が上げられていたり、市民以外の人物名が上げられていたりしているが、そのような必要性はまったく認められない。	遺跡公園の整備基本構想・計画では、遺跡の保存・整備・活用に関わる多様な内容について、様々な視点から検討する必要があることから、検討委員会は、考古学を中心とした様々な領域を専門とする有識者を中心に、市民の立場を代表する地元代表者や公募委員を含めた構成としています。 なお、H508 遺跡は縄文文化の遺跡ですが、本市のアイヌ施策推進計画には「さとらんど」の遺跡の保存が位置付けられており、また、専門性を考慮して必要に応じて市外在住の有識者にも委員を委嘱しております。

第３章　丘珠縄文遺跡の概要				
No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
3	第３章 -6	丘珠縄文遺跡の概要	26 頁第６図の遺物分布を見る限り、調査範囲はかなり限定的な印象を受けます。20 頁の文言に、「平成４・５年に実施した遺跡の有無を調べる予備調査（試掘調査）で、広い範囲から土器や石器が見つかっており、市内でも有数の広がりを持つ縄文文化の遺跡であることが明らかになっています」とありますが、調査は当面当該カ所で必要十分なのでしょうか。その根拠をお教えください。むしろ今後の発掘調査計画を開示し、それをたんたんと進め広い範囲に網かけをして遺跡の全貌を明らかにしていくことが、遺跡公園計画を打ち出す前に、肝要と思いますが、いかがでしょうか。	遺跡は、現在ある状態のまま将来に伝えていくことが大切です。広範囲で発掘調査を行えば、遺跡の全貌が明らかになる一方で、発掘して遺跡を掘り下げてしまうと、遺跡そのものは失われてしまうため、次世代に伝えていくことができなくなります。したがって、遺跡公園の整備に際しては、遺跡の本質的価値を明らかにするために、必要最低限の範囲について発掘調査を行い、その成果を十分踏まえた整備を行う必要があります。 なお、平成 25 年度の確認調査では、トレンチ調査により、縄文文化の地層の状態や遺構・遺物の分布状況の概要など、基本構想の策定に向けて、一定の成果を得ることができたと考えています。

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
4	概要版 第３章-6 第４章-1	丘珠縄文遺跡の概要 整備の意義	基本構想（案）の概要版に簡潔に示された「広い」、「低い」、「多い」、「貴重」というキーワードがありますが、少なくとも、当該遺跡自身から語るのではなく、他の遺跡との比較、もしくは新奇性でその重要性を語ることが、一般市民には理解しやすいと思います。公園整備の必要性をいくつか上げておりますが、例えば、「市内の縄文文化の遺跡ではじめて見つかったヒエ属の種子は、近接する H317 遺跡の続縄文文化初頭のヒエ属種子と合わせて、ヒエ属の栽培化や利用方法を検討する上で、たいへん貴重な資料」（24 頁）云々とあります。非常に意義のある研究とは思いますが、その研究には公園整備が必須条件とは、私には思えません。他の整備理由についても、個別にもっと深化した検証が必要と考えます。	遺跡の概要における４つのキーワードは、市内の他の縄文文化の遺跡と比較し、丘珠縄文遺跡の特徴として指摘できる項目を整理したものです。 ヒエ属の種子の栽培化や利用方法を研究するために、遺跡公園を整備するのではなく、その研究成果を、実際にその場に保存されている丘珠縄文遺跡を通して広く市民に知っていただき、また、その価値を次世代へと伝えていくために、遺跡公園を整備する必要があるものと考えています。 なお、今後も、基本計画の策定に向けて、市民にわかりやすい発信を心がけます。 →【概要版】 「丘珠縄文遺跡の概要」【遺跡の特徴】に、「市内の他の縄文文化の遺跡との比較に基づき、丘珠縄文遺跡の特徴を４つのキーワードに整理しました。」を加筆します。
5	概要版 第３章-6 第４章-1	丘珠縄文遺跡の概要 整備の意義	遺跡の価値に関連して、丘珠縄文遺跡の特徴が４点、「広い・低い・多い・貴重」とあります（概要版）。これら特徴が、何と比較して発信するに値する「特徴」と言えるのかがわからない。例えば、「ヒエ属の種子発見」は何がすごいのか、何がわかるから特徴としてピックアップするのかがわからない。第三者にもわかるように、「まれで顕著な特徴」を意識して、「価値」を説明してほしい。	
6	概要版 第３章-6 第４章-1	丘珠縄文遺跡の概要 整備の意義	遺跡の特徴の「貴重」の部分も、それが何故貴重なのか全くわかりません。モノや遺物は、人間の日々の精神的営みの結果であり、唯物史観による文化の解釈には違和感を覚えます。再考を。	

第４章　整備の基本方針				
No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
7	第４章-2	遺跡公園の位置付け	車いすや視覚障がい者にも分かりやすいバリアフリーな配慮も必要かと思います。	ご意見を参考に、障がいのある方も利用しやすいように、バリアフリー等の導入について、基本計画の中で検討を進めていきます。
8	第４章-2	遺跡公園の位置付け	障がい者の方々も気安くこれるような仕組みを作っていただきたい。	
9	第４章-2	遺跡公園の位置付け	国内や国外の観光客への PR も必要ですが、札幌は近隣市町村の小学校などの修学旅行先にあげられることが多いと思います。その学習の場として活用してもらえるよう、さまざまな便宜を図るべきだと考えます。	ご意見を参考に、学校教育との連携について、基本計画の中で検討を進めていきます。

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
10	第４章-4 第４章-5	整備の基本方針 整備の方向性	あまりコンクリートで固めたようなレジャー傾向の公園にしてほしくないです。	ガイダンス施設や体験学習施設を設置する方針ですが、具体的な整備方法については、ご意見を踏まえ、基本計画の中で検討を進めていきます。
11	第４章-5-(1)	整備の方向性	H508 遺跡のものだけではなくて、札幌全体の縄文文化について知ることができる場所になってほしいと思います。	縄文文化からアイヌ文化期を通じ、札幌の歴史のつながりを踏まえ、縄文文化の魅力を感じることができるように、札幌の縄文遺跡の情報を発信していく方針です。 なお、展示の内容については、基本計画の中で検討を進めていきます。
12	第４章-5-(1)	整備の方向性	今まで札幌には明治以降の歴史的事物しかない印象がありましたが、今回の公園整備によって縄文時代までさかのぼった歴史展示が実現します。札幌の歴史に厚みが出る、たいへん画期的なことだと思います。	
13	第４章-5-(1)	整備の方向性	丘珠地区は明治の開拓の歴史もあり、何かその土地のロマンなり、物語が生まれてくるような公園にして欲しい。	
14	第４章-5-(1)	整備の方向性	現状では展示内容は固まっていないようですが、基本構想のイメージからはアイヌ文化とのつながりを説明する要素が少ないような気がしますので、そのへんの学問的な補強と展示での工夫などがあれば、より一層すばらしいものになるのではないでしょうか。	
15	第４章-5-(1)	整備の方向性	基本方針 1-方向性②について、市民のための遺跡整備とは思えません。学者・専門家のための遺跡整備なのでしょうか。シンポジウムにも参加しましたが、とても市民目線で発信しているとは思えませんでした。もうこれ以上発掘しなくても良いのではないでしょうか。30 年間やってきたことをきちんと市民に公表すべきだと思います。	市民との協働により継続的な調査・研究を行い、市民とともに遺跡の価値を探求し、発信していくことを目指しています。 また、これまでの市内の縄文遺跡の調査成果については、基本方針（1）の方向性①に示したとおり、情報を発信し市民に公表していく方針です。 なお、これまでの市内の遺跡の調査成果については、札幌市埋蔵文化財センター（札幌市中央区南 22 条西 13 丁目）で展示しております。

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
16	第４章 -5-(1) 第４章 -5-(2)	整備の方向性	地中に保存しておくよりも、埋蔵文化財に対する学習の場や普段ふれる機会のない埋蔵文化財にふれる機会を作ってもらえる方がありがたい。	市民との協働により継続的な調査・研究を行う方向性や、縄文体験活動を展開する方向性を通して、縄文文化を体感できる場を創出する方針です。 ご意見を参考に、体験や学習の内容について、基本計画の中で検討を進めていきます。
17	第４章 -5-(1)	整備の方向性	発掘調査や整理作業の体験ができるようにしてほしい（キッズコメント：類似意見15件）。	
18	第４章 -5-(1) 第４章 -5-(2)	整備の方向性	縄文文化や縄文人のことを学ぶ機会を作ってほしい（「縄文学校」の設置など）（キッズコメント：類似意見４件）。	
19	第４章 -5-(2)	整備の方向性	多くの市民、多様な年齢の方々が楽しめ、考古学に興味を持ってもらえる公園にしてください。	子どもから大人まで楽しみながら参加できる縄文体験活動を展開していくことを目指しています。 ご意見を参考に、多様な世代の方々が、楽しく学べる施設になるように、今後、基本計画の検討を進めます。
20	第４章 -5-(2)	整備の方向性	大人はもちろん、子供たち（小学生）が体験学習を通して歴史や縄文文化に興味をもてるような公園になるといいと思います。	
21	第４章 -5-(2)	整備の方向性	子供たちも大人（老人）も楽しまれるように制作される事を心よりお願いいたします。	
22	第４章 -5-(2)	整備の方向性	子どもから大人まで楽しみながら、色々な体験ができる公園にしてほしい（キッズコメント：類似意見３件）。	
23	第４章 -5-(2)	整備の方向性	さとらんどはファミリーで集う人が多いので、この世代を中心に一部の人向けにならない施設になってほしいと願います。	
24	第４章 -5-(2)	整備の方向性	私自身歴史を学ぶとなると堅苦しい感じがして入り込みにくい部分があります。よく資料館等にある様な展示物や年表だけで構成されているものを見ても、小さな子供と一緒であればじっくり読めなかったり、興味がわかなかったりします。体験施設ゾーンという物が作られるようなので、小さな子供からでも入り込みやすいものになれば、歴史に関してや今の札幌、北海道がどのようにできたのか等興味がわくのではないかと思います。何度行っても楽しめる、楽しく学べる施設作りを楽しみにしています（縄文時代に着ていた物を着る、食べていた物を食べる、作って食べてみる、竪穴住居宿泊体験等）。	

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
25	第４章 -5-(2)	整備の方向性	丘珠縄文遺跡の体験活動に、この遺跡の「Ｑ＆Ａ」集を作成してほしい。	ご意見を参考に、体験活動の内容について、基本計画の中で検討を進めていきます。
26	第４章 -5-(2)	整備の方向性	縄文文化の道具（土器、石器、弓矢、斧、縫い針など）を作ったり使ったりする体験ができるようにしてほしい（キッズコメント：類似意見 93 件）。	
27	第４章 -5-(2)	整備の方向性	昔の道具を使って、木の実の採集や作物の収穫等の体験ができるようにしてほしい（キッズコメント：類似意見３件）。	
28	第４章 -5-(2)	整備の方向性	縄文文化の衣服やアクセサリーを作ったり、身に付けたりする体験ができるようにしてほしい（キッズコメント：類似意見 38 件）。	
29	第４章 -5-(2)	整備の方向性	火おこし体験で、実際に焚き火ができるようにしてほしい（キッズコメント：類似意見 13 件）。	
30	第４章 -5-(2)	整備の方向性	竪穴住居を作って、実際に寝泊まりしたり生活したりする体験ができるようにしてほしい（キッズコメント：類似意見 21 件）。	
31	第４章 -5-(2)	整備の方向性	縄文文化の食べ物を作って、食べられる体験ができるようにしてほしい（キッズコメント：類似意見 21 件）。	
32	第４章 -5-(2)	整備の方向性	縄文文化の村のくらしを体験できるようにしてほしい（キッズコメント：類似意見 12 件）。	
33	第４章 -5-(2)	整備の方向性	縄文文化の食べ物を食べられるレストランや、暮らしを体験できるホテル、食材や道具を売っているお店などがあるといいと思う（キッズコメント：類似意見 11 件）。	
34	第４章 -5-(2)	整備の方向性	遺跡の探検をしてみたい（キッズコメント）。	

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
35	第４章 -5-(2)	整備の方向性	縄文文化の住まいや道具などを展示する博物館を作ってほしい(キッズコメント：類似意見６件）。	ご意見を参考に、ガイダンス施設の規模・デザインや展示の内容、屋外展示の内容、体験学習施設の内容や運営体制について、基本計画の中で検討を進めていきます。 なお、遺跡の発掘調査の方法や札幌市内の遺跡の分布等については、札幌市埋蔵文化財センター（札幌市中央区南22条西13丁目）で展示しております。
36	第４章 -5-(2)	整備の方向性	建造物そのものは規模は小さめで、豪華さはなくとも、又、足を運びたくなるようなオリジナリティのある魅力的な建物に仕上げれば良いかと思います。	
37	第４章 -5-(2) 第４章 -5-(3)	整備の方向性	体験学習施設については、その概要がわからないので、軽々には言えませんが、コストは、それなりかかり、且つそれを支えるボランティアを含む要員体制の構築は、簡単ではないということは言えると思います。今後市民の意見を拝聴してからということかもしれませんが、他府県の事例をモデルケースとして、それを下敷きに「整備案」の中で開示する等をしなければ、計画の透明性を損ないます。	
38	第４章 -5-(2)	整備の方向性	現在のように、さとらんどセンターの２階端の資料室にしか出土したものが置かれていないという状態だと、本当に遺跡があるのかどうかが希薄な印象があるため、さとらんどセンター1階の中央ホールに飾るとか、遺跡近くの道にプラスチック張りにして見えるように埋める(後で取り出して他のものと入れ替えたりできるように）とかして、さとらんどにいれば目に入ってくるような感じにしてほしい。	
39	第４章 -5-(2)	整備の方向性	複数ある遺跡は時代が異なる様なので、それぞれの違いが文章ではなく最悪イラストでも構わないので一目でわかる様な展示にして欲しい。	
40	第４章 -5-(2)	整備の方向性	新しく出土したものを期間限定で良いので展示するとかして欲しい。	
41	第４章 -5-(2)	整備の方向性	毎年の発掘現場での作業動画とか見てみたい。	
42	第４章 -5-(2)	整備の方向性	単に遺跡だけに焦点を当てるのではなく、発掘作業者側がどういった道具や機器を使ってどのように作業を進めているのかや、地域的にどのような歴史があったり、どのような土地なのかなども知りたい。	

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
43	第４章 -5-(2)	整備の方向性	一般市民や子供たちの体験学習については、あえてH508遺跡で実施されなくともいくらでも機会がもたれ得るし、その必要性についての説得力が十分に示されているとは言えない。	H508遺跡を活かした縄文体験活動を展開し、市民との協働で発展させていくことを目指しています。整備・保存された遺跡の調査成果に基づき、遺跡が保存されている空間で体験活動を行うことが、縄文文化の体感には欠かせないものと考えます。
44	第４章 -5-(3)	整備の方向性	縄文文化などの歴史に造形の深い市民ボランティアをガイドとして数多く育成、活用されることを強く望みます。縄文検定などを創設し、ガイドの質の向上や市民の関心を高めるのも一考かと思います。	活用・運営を市民ボランティアとともに考えていくとともに、地域の方々と連携し、施設の活用を考えていく方針です。ご意見を参考に、市民ボランティアの活動内容や地域の方々との連携について、基本計画の中で検討を進めていきます。
45	第４章 -5-(3)	整備の方向性	地域の人々から永く親しまれる様(環境を含めて）願いたいです。	
46	第４章 -5-(3)	整備の方向性	自分たちも参加して縄文の村づくりをしてみたい（キッズコメント）。	
47	第４章 -5-(4)	整備の方向性	さとらんどやモエレ沼公園周辺に、縄文遺跡公園が整備されることで、札幌の新しい観光スポットとして、ますますその価値を高めていくものと思います。	サッポロさとらんどやモエレ沼公園など、近隣の文化施設と連携しながら、地域の文化にふれることができるネットワークづくりを進め、また、体験活動ができる観光資源としての活用も目指していきます。

第５章　今後の計画

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
48	第５章	今後の計画	遺跡公園整備は決定事項でしょうか。そもそも論として、当該整備は市として決定事項なのでしょうか。「(仮称)丘珠縄文遺跡公園整備基本構想（案）」の33頁「第５章今後の計画」を読むとそう読めますが。費用・体制が明らかになっていないのに、平成30年オープンとなっていることは、奇異な印象を与えます。33頁では平成27年の「基本・実施設計」において、詳細を明らかにするとのことですが、そうであるなら、現時点で、概算のイニシャル及びランニングコスト見通しがあると思いますが、それが「整備案」では開示されておりません。直接・間接の運営について、どの組織がどう関わるのか、これも27年度以降に開示されるものかもしれませんが、これも同様に一般市民にとって関心があることと思いますが、それについて、ふれることは、整備案では時期尚早なのでしょうか。	サッポロさとらんど内に保存されている遺跡を活用して遺跡公園を整備する計画は、第２章第１節「事業の位置付け」で示したとおり、札幌市のまちづくり計画（「第３次札幌新まちづくり計画」）に施策の一つとして位置付けられています。 なお、今回の基本構想（案）は、整備の方針・方向性を示すものであり、具体的な整備内容や運営体制・費用等については、今後、基本計画の中で、検討を進めていきます。

その他の意見				
No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
49		事業全般に関すること	さとらんどで3カ所も遺跡が発掘され広大に広がって分布しているところが非常に珍しいのではないかと思います。縄文文化の遺跡である丘珠縄文遺跡を活用され、後世にわたり残る丘珠縄文遺跡公園を整備（実施）する事業に賛成です。	ご意見を踏まえ、遺跡の価値を将来に伝達していくことができるように、丘珠縄文遺跡の整備事業を進めていきます。 なお、検討委員会には公募した市民委員にも入っていただき、市民の立場から、本事業についてご意見をいただいています。また、幅広い世代に参加いただいた確認調査の市民ボランティアの皆様からも、アンケート調査や意見交換会で、遺跡公園の整備について貴重な意見をいただいています。
50		事業全般に関すること	今回の「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」の整備は、たいへんすばらしい事業だと認識しています。	
51		事業全般に関すること	札幌市では遺跡が発掘されているものの公園としての整備はまだ行われていないようです。今回、さとらんどに計画されていることを知り、とても嬉しく思います。いろんな問題があるかと思いますが、地域の人たちの希望でもあります。早く実現してほしいと願っています。	
52		事業全般に関すること	公園のテーマが私達の孫、ひ孫にも続きますには整備第一ですので、よろしく頼みます。	
53		事業全般に関すること	実現するために、若者（中高生位）を会議に招き、プロ視線とは違った角度から意見を出してもらい、幅広い世代に活用してみよう、行ってみようと思う施設にして下さい。	
54		事業全般に関すること	なぜ、このタイミングで遺跡公園を整備するのか。さとらんど造成時に整備すればよかったのではないか。その説明が不足している。さとらんどの一部を取り壊すのであれば、それに投資した税金（血税）が無駄になるが、その金額を提示すべき。メリットとデメリットを全てさらして市民に判断を仰ぐべきではないか。	丘珠縄文遺跡は、サッポロさとらんどの造成に先立ち、平成4・5年の試掘調査で見つかった遺跡であり、埋蔵文化財の保護の立場から、これまで地下で現状のまま保存してきました。そのままでは、遺跡の価値が市民にわかりにくかったことから、遺跡公園の設置に対する社会的な気運の高まりを踏まえた上で、札幌の特色ある文化財を積極的に活用していく方針のもと、遺跡を整備することにより、将来にわたって遺跡の価値を伝えていくことを目指しているものです。 サッポロさとらんどの既存施設と連携し、さとらんど全体で相乗効果が生まれるような整備を、基本計画の中で検討していきたいと考えておりますので、本文を修正いたします。 →【本文追加　30ページ】 「4　整備の基本方針」に、「なお、整備にあたっては、サッポロさとらんど内の施設と連携し、サッポロさとらんど全体の魅力アップを目指していきます。」を加筆します。
55		事業全般に関すること	遺跡公園の整備により、「さとらんど」がどのような影響を受けるのか示されていない。	
56		事業全般に関すること	低迷している「さとらんど」に集客を促すために、さとらんどの一部を「（仮称）丘珠縄文遺跡公園」として再整備するという構想なのでしょうか。	

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
57		その他	遺跡公園などというものは、さとらんどのようなところよりも、周知の埋蔵文化財包蔵地の大部分を擁し、歴史上重要な埋蔵文化財が発掘されている「北海道大学」の構内に設けるべきではないか。	ご意見を参考にしながら、市内の遺跡の保護や活用については、文化財保護法に則り、引き続き適切に進めていきます。 なお、北海道大学の構内には、「遺跡保存庭園」が設けられ、遺跡の保存が図られており、市民にも開放されています。
58		その他	「遺跡公園」を都市の周縁近くに位置付けるあり方は、人々の過去の歴史を現在の文化から遠ざけて理解させる要件をなしており、それは過去の文化を「遅れた文化」として軽んじているということができる。札幌圏の平野部には、より重要な遺跡群が中心部にあって、それこそ札幌圏の変貌を顧みる上で、貴重な文化財と言うことができるが、それに対して札幌市は「緑地」化や「公園」化という不適切な手段によって文化財保護法や都市化にヴェールを被せ、それらの遺跡や史跡あるいは庭園としての理解から市民の目をそらせてきている。H508 遺跡を文化財として保存することについては望ましい面があるにせよ、札幌市としては、「公園」化をひとまず控え、より重要な文化財保護対策にこそ責任をもって当たるべきである。	
59		その他	この地域の遺跡群の本質的な価値を問うのであれば、札幌周辺の数多くの遺跡との関連は無視できないことは当然です。とりわけ都市中心部に位置する「偕楽園緑地」～伊藤義郎邸敷地が変容されながらも残されていることの意義は大きく、変容の歴史を明らかにし記録すること、今後どのように都市計画の中に位置付けていくかを議論することは、さとらんどの遺跡の今後を考えるための重要な課題を明らかにしていくことになると思います。	
60		その他	これで縄文遺跡の整備を終わりとするのではなく、できれば縄文海進時、多くの住居遺跡が集中する、札幌市西側の本格的な遺跡調査、公園整備ができればよりよい未来への資産となるのではないかと考えます。	
61		その他	公園というと、都市公園法や自然公園法に基づくものが一般的ですが、「（仮称）丘珠縄文遺跡公園」は、どのような法に基づく公園なのでしょうか。	「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」については、市民の皆様にわかりやすく発信するため、「公園」という呼称を用いていますが、独立した都市公園を想定しているものではありません。具体的な内容については、基本計画の中で検討を進めていきます。
62		その他	モエレ沼公園造成のためにすでに一帯の自然は充分に変容され、さとらんどとして遺跡群は充分に保護されているように感じます。	遺跡公園として整備することにより、遺跡を適切に保護するとともに、地域の歴史・文化・教育資源として、遺跡を活用していく方針です。

No.	該当箇所		意見の概要	札幌市の考え方
63		その他	「さとらんど」自体も、モエレ沼公園に編入し、モエレ沼公園の一部として整備したほうがよい。近接する施設なのだから、農政部や文化部、緑化推進部が別々で維持管理をするのではなく一元化すべき。	サッポロさとらんどやモエレ沼公園など、近隣の文化施設と連携し、地域の歴史や文化にふれることができるネットワークづくりを目指しています。 なお、維持・管理に関する頂いたご意見については、関係する部署に伝えます。
64		その他	「縄文遺跡」という呼び名は、考古学上の学術用語としてのものではなく、その概念が明らかにされないまま比較的最近になって安易に多用されるようになったものであり、「縄文時代」に形成された遺跡という意味を持たせて言う言葉のつもりで使用されていると思われるが、「続縄文遺跡」からの「擦文遺跡」とか、あるいは「弥生遺跡」という言い方をしないところからしても、適切な呼び方と言えないことは言うまでもない。	市民にわかりやすく発信するために、考古学の時期区分として、市民にも一般的な「縄文文化」という用語を使い、縄文文化の遺跡という意味で、「縄文遺跡」と呼称しています。
65		その他	「縄文時代」という呼称にしても、その概念の検討についてはこれまでおろそかにされたまま適用されてきている。「縄文時代」という時代呼称は、単に「縄文」状（様）の文様が付けられた土器に因むというものでしかなく、同時代に撚り紐状（様）の文様がかなり使われているとはいえ、決して粗い撚り紐のイメージを想起させるような縄目跡状（様）のものばかりではなく、撚り紐文様以外の土器も少なくない。「縄文時代」という用語を未だに使用している保守的な考古学界の従前のあり方を、もはや少なくとも北海道から返上すべきことをここに指摘しておく。	

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想　～概要版～

「(仮称)古代の里」整備事業

目　的

●歴史や文化を尊重し環境に配慮した生活空間を希求する社会的要請
●「埋蔵文化財行政の推進による地域づくり・ひとづくり」の方向性(文化庁)

↓

●サッポロさとらんど内に保存されている縄文文化の遺跡(H508遺跡:通称「丘珠縄文遺跡」)を活用した遺跡公園の整備

↓

★札幌の縄文文化の魅力を発信するとともに、地域の歴史・文化・教育資源として、遺跡の価値を将来に伝えていきます

位置付け

まちづくりの長期計画「札幌市まちづくり戦略ビジョン」(平成25～34年度)

↓

中期実施計画「第3次札幌新まちづくり計画」(平成23～26年度)
政策目標5「市民が創る自治と文化の街」
重点課題2「多彩な文化芸術とスポーツを楽しみ健康づくりを推進するまちづくり」
施策「市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、自ら作り上げる文化活動の振興」

↓

「(仮称)古代の里」の整備

↓

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想

※「H508遺跡」→通称「丘珠縄文遺跡」(わかりやすく、親しみやすい呼び名に)

策定に至る経緯

●基本構想検討委員会
平成24年度　委員会設置(委員14名:有識者、公募市民等)
委員会5回開催(内、専門部会1回)
平成25年度　委員会6回開催(内、専門部会2回)

●市民参加、市民意見の集約
平成25年度　市民参加による確認調査の実施
発掘調査市民ボランティア延べ168名参加
発掘調査市民ボランティア意見交換会(ワークショップ)
遺跡公園市民アンケート(146名)

市民ボランティアによる確認調査

●情報の発信
平成23年度　公開シンポジウム「遺跡の保存と整備活用」
出前展示(さとらんど)、企画展(埋蔵文化財センター)
平成24年度　講演会「縄文文化と札幌の遺跡」
出前展示(さとらんど)、企画展(埋蔵文化財センター)
平成25年度　講演会「遺跡公園の活用を考える」
遺跡見学会、中高生体験発掘、確認調査現地見学
出前展示(さとらんど)、企画展(埋蔵文化財センター)

市民ボランティア
意見交換会

丘珠縄文遺跡の概要

【遺跡の特徴】市内の他の縄文文化の遺跡との比較に基づき、丘珠縄文遺跡の特徴を4つのキーワードに整理しました。

★ 広い　市内最大級の約25,000㎡の広さを有する縄文晩期(約2300年前)の遺跡

★ 低い　市内では数少ない沖積平野の低地部に立地する縄文遺跡(縄文晩期の地層の標高は3m前後)

★ 多い　縄文晩期の複数の地層(遺物包含層)から、炉跡19カ所や土器・石器等2,900点程が出土

★ 貴重　市内の縄文遺跡で唯一ヒエ属の種子発見
その他にも、炉跡周囲の土壌からサケ科等の魚骨片、チョウザメ科の鱗板片、動物(哺乳綱)の骨片、クルミ属の内果皮片等の生業や食生活に関する貴重な資料を発見

【遺跡の価値】
★ 狩猟・漁撈・採集などを目的とした季節的な生業活動が繰り返された遺跡
★ 縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと続く札幌の低地部でのくらしぶりの原形を示し、縄文文化から続く札幌の歴史を示す代表的な遺跡のひとつ
★ 低地部での具体的なくらしぶりを知ることができる学術的にも魅力的な遺跡

炉跡から見つかったヒエ属種子
(顕微鏡拡大写真)

遺跡公園のテーマ

『川辺に広がる札幌の縄文、その「食文化」をはじめとする縄文の体感』

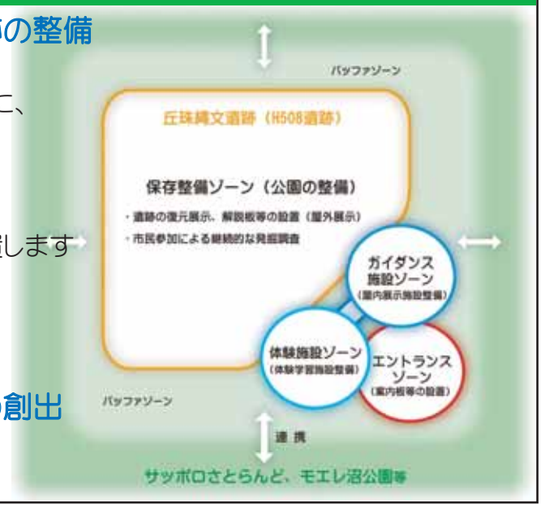
整備の基本方針・方向性

基本方針1　札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けたH508遺跡の整備
方向性①　「札幌の縄文」を発信します
方向性②　縄文遺跡であるH508遺跡を適切に保存するとともに、遺跡の価値を継続的に探求・発信します

基本方針2　縄文文化の体験と学びの展開
方向性①　縄文文化を体験できる活動を展開します
方向性②　縄文文化の学びの導入としてガイダンス施設を設置します

基本方針3　市民との協働による遺跡の活用
方向性①　遺跡の整備と活用・運営を市民との協働で進めます
方向性②　地域に根ざした施設づくりを目指します

基本方針4　「学び」のネットワークづくりと市民交流の場の創出
方向性①　「学び」のネットワークづくりを進めます
方向性②　市民交流の場を創出します



今後の計画

平成25年度
●基本構想の検討
(整備活用の基本的な考え方)
●確認調査等、●市民意見集約

》》

平成26年度
●基本計画の検討
(基本構想の具体化)
●確認調査等、●市民意見集約

》》

平成27年度
●基本・実施設計
(設計図書作成)

》》

平成28～29年度
●施設建築等

》》

平成30年度
オープン予定

編集・発行
札幌市観光文化局文化部文化財課埋蔵文化財係
札幌市埋蔵文化財センター
〒064-0922　札幌市中央区南 22 条西 13 丁目
TEL 011-512-5430　/　FAX 011-512-5467
http://www.city.sapporo.jp/kankobunka/maibun/
市政等資料番号　01-J02-14-1273